

総務委員会資料

◎付託議案説明資料

- 承認第1号議案 専決処分事件の報告及び承認について[関係分]
《令和2年度島根県一般会計補正予算(第13号)》
・・・・・・・・ P 1

◎報告事項

- 政策企画推進費の令和2年度実績及び事業内容について
- ・政策企画推進費の令和2年度実績について
(政策企画監室)・・・・・・・・ P 2
 - ・若年層(島根県出身者)の社会移動に関する
実態調査結果の概要 (政策企画監室)・・・・・・・・ P 3
- 島根県国土強靱化計画の見直しについて
(政策企画監室)・・・・・・・・ P 7
- 島根県公共施設等総合管理基本方針の見直しについて
(政策企画監室)・・・・・・・・ P 10
- 地方分権改革の動きについて
(政策企画監室)・・・・・・・・ P 12
- 県及び市町村における審議会等の女性の参画率について
(女性活躍推進課)・・・・・・・・ P 16

令和3年6月24日・25日

政策企画局

令和3年6月24日・25日
 総務委員会資料
 政策企画局

令和2年度島根県一般会計補正予算(令和3年3月31日専決処分) (政策企画局所管分)

課別予算額(一般会計)

(単位 千円)

事業名	補正前の額	補正額	計	概要
政策企画監室	326,555	3,952	330,507	財源 (寄) 3,952
1 ふるさと島根寄附金事業費	53,309	3,952	57,261	ふるさと島根基金への積立金 新型コロナウイルス感染症対策事業費への寄附の増
女性活躍推進課	478,372	0	478,372	
秘書課	121,436	0	121,436	
広聴広報課	971,116	0	971,116	
統計調査課	644,877	0	644,877	
政策企画局合計	2,542,356	3,952	2,546,308	財源 (寄) 3,952

政策企画推進費の令和2年度実績について

1. 政策企画推進費の概要

- (1) 政策形成機能をより一層強化し、県政の発展に寄与するため、政策及び施策の形成に直接的に資する調査を円滑に実施することを目的とする。
- (2) 県政の基本方針や重要な施策・事業などの実施可能性の判断や円滑な推進を図るための調査で緊急に実施する必要がある調査の執行を確保する。

2. 令和2年度事業の実績

次の1事業を実施。

事業内容	執行額	執行課
<p>【若年層（島根県出身者）の社会移動に関する実態調査】</p> <p>(1) 調査目的 若年層の県外転出による社会減への取組の基礎資料とするため、島根県出身の若者について意識調査を実施し、その分析を行った。</p> <p>(2) 調査方法 島根県出身の概ね就職先が内定した学生（157名）及び大学卒業後3年以内の年齢に相当する社会人（191名）より、インターネットを用いて回答を得た。</p>	2,200千円	政策企画監室

若年層（島根県出身者）の社会移動に関する実態調査結果の概要

1. 調査目的

島根県の人口の社会減の主要因である若年層の進学・就職による転出について、県内就職に対する意識や支障要因等について調査し、若年層の社会減への取組の基礎資料とする。

2. 実施期間と調査対象

実施期間： 令和3年2月17日～3月7日

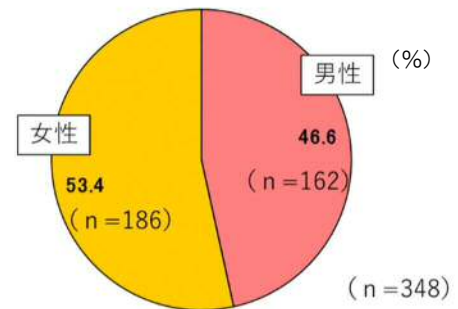
調査対象： 島根県出身者で、概ね就職先が内定した者（概ね20～22歳）及び大学卒業後3年以内の年齢に相当する者（概ね23～25歳）

回答数： 348名（学生157名、民間企業97名、公務員94名）



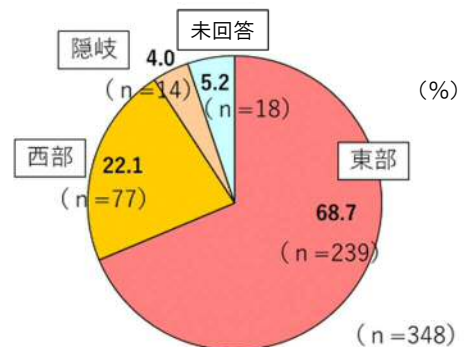
性別

	男性	女性	合計
人数	162	186	348
割合	47%	53%	100%



出身地域

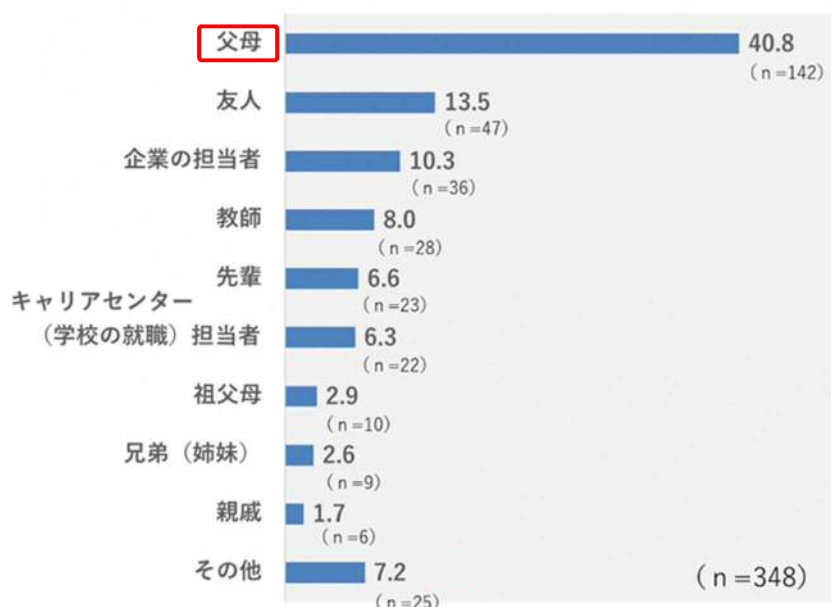
	東部	西部	隠岐	未回答	合計
人数	239	77	14	18	348
割合	69%	22%	4%	5%	100%



3. 調査結果（抜粋）及び今後の取組の方向性

(1) 就職決定の際に最も影響を受けた人

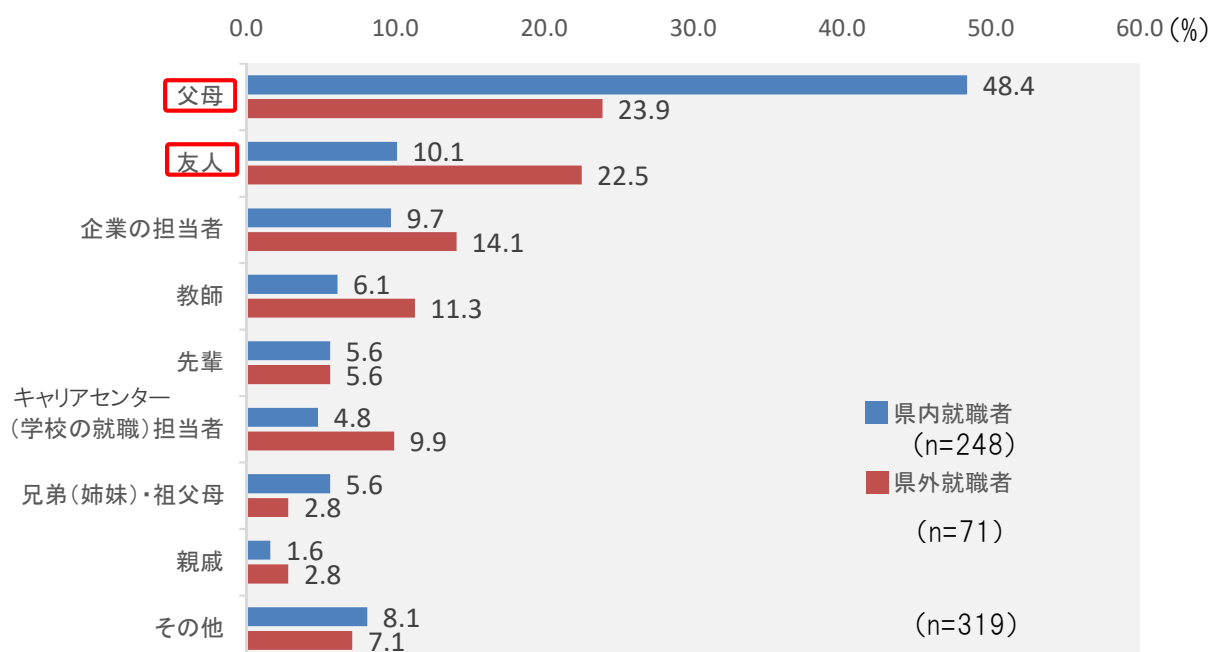
① 全体（348名） 0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 (%)



○ 「父母」が40.8%と最も多く、次いで、「友人」が13.5%、「企業の担当者」が10.3%と続いた。

② 県内・県外就職別（319名）（県内就職者248名、県外就職者71名）

※ 進路未定の学生29名を除く。



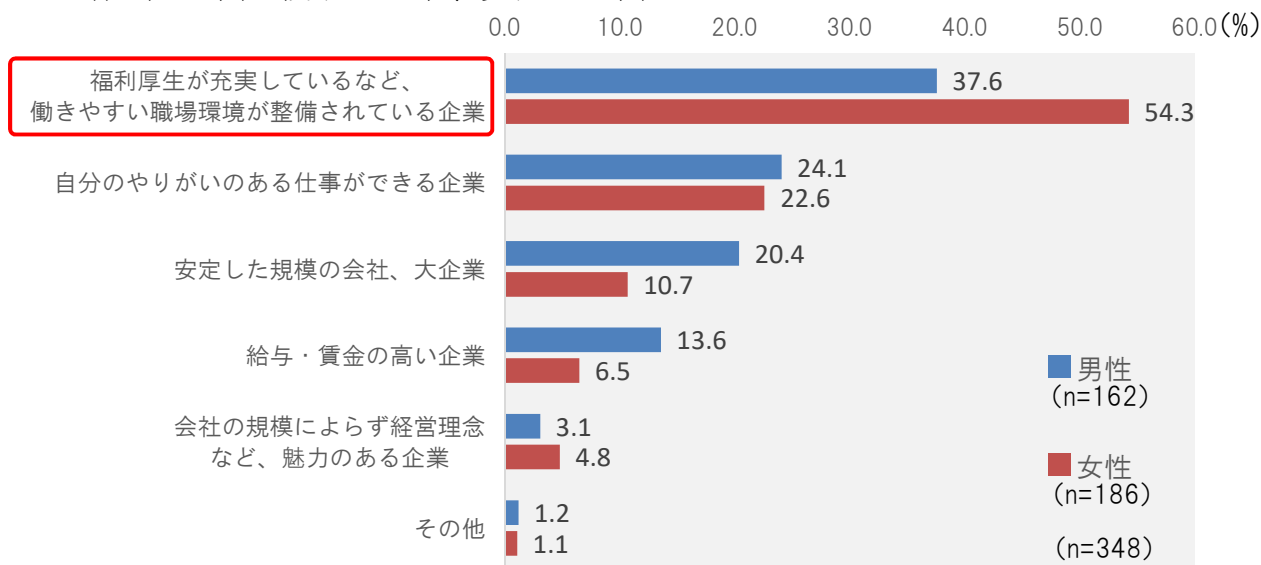
○ 県内就職者は、親からの影響を強く受けており、親が子どもに「県内に残って（戻って）ほしい」と意思表示することの重要性が示唆される結果となった。

本人に対する働きかけとともに、親世代に対する働きかけが重要と考えられる。

○ 県外就職者は友人からの影響が高い。県外で暮らしながら、同郷のコミュニティ・友人関係を維持することが、県内就職への関心を高めることにつながる可能性がある。

(2) 就職先を選ぶ上で最も重要だと思うもの

全体（348名）（男性162名、女性186名）



- 男女ともに「福利厚生が充実しているなど、働きやすい職場環境が整備されている企業」を重視しており、ワーク・ライフ・バランスを優先する若年層の就業観が見て取れる。特に女性は半数以上を占めており、多様な働き方や休暇制度の充実を図ることが、県内就職への関心を高めることにつながる可能性がある。
- 男性は女性と比べて「安定した規模の会社、大企業」や「給与・賃金の高い企業」を重視する傾向にある。

(3) 島根県内に就職を決めた理由

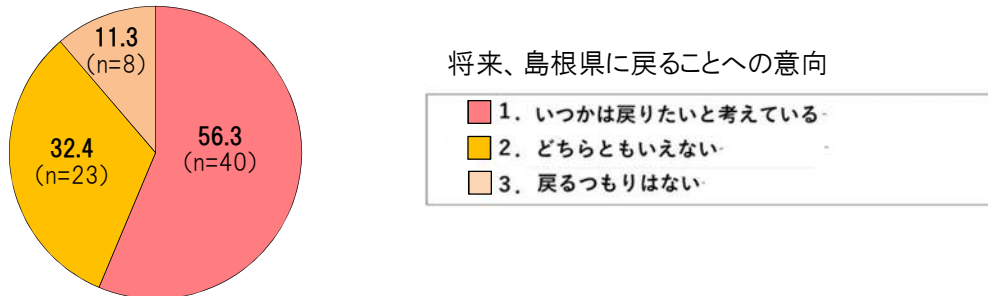
県内在住の社会人及び卒業後の居住予定地が島根県の学生（248名）



- 県内就職の決め手として「島根（地元）が好きだから」という理由が最も支持されている。小・中学校でのふるさと教育、高校での地域課題解決型学習を小学校低学年時から受けて育ってきた年代であり、そうしたものの効果も現れているものと考えられる。

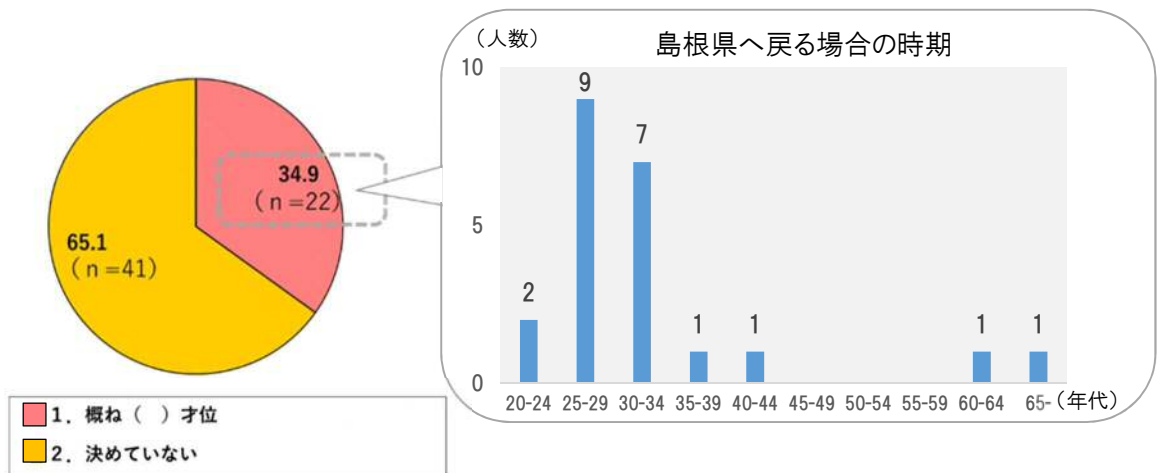
(4) 将来、島根県に戻ることに意向及び時期

- ① 将来、島根県に戻ることにどのような考えているか。
 県外在住の社会人及び卒業後の居住予定地が県外の学生（71名）



- 「いつかは戻りたいと考えている人」が56.3%、「どちらともいえない」が32.4%で、計88.7%（63名）がUターンの可能性を頭の片隅に置いている。

- ② 島根県に戻る場合、いつ頃を想定しているか。
 ①に「いつかは戻りたい」「どちらともいえない」と回答した者（63名）



- 戻る時期を決めている人は34.9%おり、20代から30代前半で戻りたいと考えている人が多かった。
- 40代や50代で戻りたいと考えている人はほぼいない。
- 将来、島根に戻る時期について30代後半以降が低いのは、子どもの進学、住宅購入等のライフイベントを具体的に描くことが難しいという可能性が考えられる。

(参考) (4) ① 「将来、島根県に戻るつもりはない」と回答した理由（8名）（複数回答）

- 自分のスキルを生かせる職種がないから。（4名）
- 都会で暮らしたいから。（3名）
- 島根県の暮らしに魅力がないから。（3名）
- 父母等に島根県に戻ってほしいと言われなかったから。（2名）

島根県国土強靱化計画の見直し

1. 島根県国土強靱化計画の概要

- ① 平成28年3月に「島根県国土強靱化計画」（以下、「県計画」）を策定。
平成26年6月に「国土強靱化基本計画（以下、「国計画」）」の閣議決定を受け、「島根県の強靱化に関する施策の推進に関する基本方針」として策定。
この県計画では、4つの「基本目標」と、8つの「基本目標を達成するための事前に備えるべき目標」、その目標の妨げとなるものとして、32の「起きてはならない最悪の事態」を設定。
そのうえで、最悪の事態を回避するための施策について「脆弱性評価」を実施し、その結果を踏まえ、11の「施策分野」毎の推進方針を決定。
- ② 計画の見直しについては、「概ね5年毎」としている。

2. 県計画見直しの必要性

- ① 県計画策定から5年が経過
- ② 県の最上位計画である島根創生計画（令和2年3月策定）との整合を図る
- ③ 近年の自然災害から得られた教訓・社会情勢の変化等の反映
島根県西部地震（平成30年4月）、平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨、重要インフラの緊急点検（平成30年）等
- ④ 国計画の見直し（平成30年12月閣議決定）による見直し内容の反映
「起きてはならない最悪の事態」への新たな項目の追加等
- ⑤ 国土強靱化予算への対応
個別事業について県計画へ事業内容を具体的に明記。
（国においては、令和4年度以降、県計画に明記された個別事業に対して「重点配分」や「優先採択」する方針）

3. 県計画見直しの基本的な考え方

- (1) 見直し時期
令和3年度中に県計画を見直す。（計画期間は概ね5年間）
- (2) 見直し内容
 - ① 国計画等を踏まえ、「起きてはならない最悪の事態」、「施策分野」の見直し
 - ② 脆弱性評価を改めて実施のうえで、各施策分野の「推進方針」の見直し
 - ③ 国土強靱化に関する「個別事業一覧」の作成

4. 令和3年度見直しスケジュール（案）

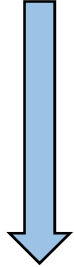
- | | | |
|------|-----|----------------------|
| 令和3年 | 9月 | 9月議会（現県計画の主な取組実績の報告） |
| | 12月 | 11月議会（新県計画（素案）の説明） |
| 令和4年 | 1月 | パブリックコメント |
| | 3月 | 2月議会（新県計画（案）の報告） |
| | 3月末 | 新県計画の決定 |

島根県国土強靱化計画（H28. 3月策定）の概要

計画において想定する災害

大規模自然災害は、一度発生すれば県土の広範な範囲に甚大な被害をもたらすことから、本計画において想定する災害（リスク）は、二次災害を含めた大規模自然災害とする。

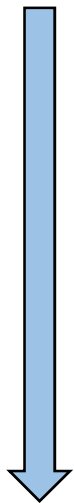
《基本目標》



想定するリスクが発生しても、

- ① 人命の保護が最大限図られること
- ② 県及び社会の重要な機能が致命的な損害を受けず維持されること
- ③ 県民の財産及び公共施設に係る被害の最小化を図ること
- ④ 迅速な復旧復興を図ること

基本目標を達成するための《事前に備えるべき目標》



- ①大規模災害が発生したときでも人命の保護が最大限図られる
- ②大規模自然災害発生直後から救助・救急、医療活動等が迅速に行われる
- ③大規模自然災害発生直後から必要不可欠な行政機能は確保する
- ④大規模自然災害発生直後から必要不可欠な情報通信機能は確保する
- ⑤大規模自然災害発生後であっても経済活動を機能不全に陥らせない
- ⑥大規模自然災害発生直後であっても、生活・経済活動に必要最低限の電気、ガス、上下水道、燃料、交通ネットワーク等を確保するとともに、これらの早期復旧を図る
- ⑦制御不能な二次災害を発生させない
- ⑧大規模自然災害発生後であっても、地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する

起きてはならない最悪の事態



事前に備えるべき目標毎に32項目を想定（詳細は次ページ参照）

回避するための施策分野

<個別施設分野>

- ①行政機能
- ②住宅・都市・土地利用
- ③保健医療・福祉、教育
- ④エネルギー、ライフライン
- ⑤情報通信
- ⑥交通・物流
- ⑦経済産業
- ⑧国土保全
- ⑨環境

<横断的分野>

- ⑩避難訓練、防災組織、防災教育
- ⑪老朽化対策

対象施策毎に実施した現状分析、脆弱性評価の結果を踏まえ、施策分野毎に推進方針を定め、島根県の強靱化に向けて取り組む。

《国土強靱化の対象施策》



8つの「事前に備えるべき目標」と32の「起きてはならない最悪の事態」

事前に備えるべき目標		起きてはならない最悪の事態	
1	大規模災害が発生したときでも人命の保護が最大限図られる	1-1	建物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や住宅密集地における火災による死傷者の発生
		1-2	不特定多数が集まる施設の倒壊・火災
		1-3	広域にわたる大規模津波等による死者の発生
		1-4	異常気象等による広域かつ長期的な市街地等の浸水
		1-5	火山噴火・土砂災害、暴風雪等による死傷者の発生のみならず、後年度にわたり国土の脆弱性が高まる事態
		1-6	情報伝達の不備等による避難行動の遅れ等で多数の死傷者の発生
2	大規模自然災害発生直後から救助・救急、医療活動等が迅速に行われる	2-1	被災地での食料・飲料水等、生命に関わる物資供給の長期停止
		2-2	多数かつ長期にわたる孤立集落等の同時発生
		2-3	自衛隊、警察、消防、海保等の被災等による救助・救急活動等の遅れと不足
		2-4	想定を越える大量かつ長期の帰宅困難者への水・食料等の供給不足
		2-5	医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶による医療機能の麻痺
		2-6	被災地における疫病・感染症等の大規模発生
3	大規模自然災害発生直後から必要不可欠な行政機能は確保する	3-1	信号機の全面停止等による重大交通事故の多発
		3-2	行政機能の機能不全
4	大規模自然災害発生直後から必要不可欠な情報通信機能は確保する	4-1	電力供給停止等による情報通信の麻痺・長期停止
		4-2	テレビ・ラジオ放送の中断や防災無線等により災害情報が必要な者に伝達できない事態
5	大規模自然災害発生後であっても経済活動を機能不全に陥らせない	5-1	サプライチェーンの寸断等による企業の生産力低下
		5-2	社会経済活動、サプライチェーンの維持に必要なエネルギー供給の停止、重要な産業施設の損壊、火災、爆発等
6	大規模自然災害発生直後であっても、生活・経済活動に必要な最低限の電気、ガス、上下水道、燃料、交通ネットワーク等を確保するとともに、これらの早期復旧を図る	6-1	電力供給ネットワーク（発電電所、送配電設備）や石油・LPGガスサプライチェーンの機能の停止
		6-2	上水道等の長期間にわたる供給停止
		6-3	汚水処理施設等の長期間にわたる機能停止
		6-4	地域交通ネットワークが分断する事態
		6-5	異常湧水等により用水の供給の途絶
		6-6	避難所の機能不足や応急仮設住宅の不足等により避難者の生活に支障が出る事態
7	制御不能な二次災害を発生させない	7-1	市街地での大規模火災の発生
		7-2	沿線・沿道の建物崩壊による直接的な被害及び交通麻痺
		7-3	有害物質の大規模拡散・流出
		7-4	原子力発電所の事故による原子力災害の発生・拡大
8	大規模自然災害発生後であっても、地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する	8-1	大量に発生する災害廃棄物の処理の停滞により復旧・復興が大幅に遅れる事態
		8-2	道路啓開等の復旧・復興を担う人材等（専門家、コーディネーター、労働者、地域に精通した技術者等）の不足により復旧・復興が大幅に遅れる事態
		8-3	地域コミュニティの崩壊・治安の悪化等により復旧・復興が大幅に遅れる事態
		8-4	基幹インフラの崩壊により復旧・復興が大幅に遅れる事態

島根県公共施設等総合管理基本方針の見直し

1. 島根県公共施設等総合管理基本方針の概要

- ① 平成27年9月に「島根県公共施設等総合管理基本方針」(以下、「県方針」)を策定。

公共施設等(公共施設、インフラ施設)の全体を把握し、予防的対策等の維持管理費負担の軽減により、県民に必要なサービスを将来にわたり提供するためのもの。

高度成長期以降のインフラの老朽化対応や人口減少期における公共施設の最適化を図る背景から国府省庁及び地方公共団体において策定。

- ② 実施期間は平成27年度からの10年間としている。
 ③ 平成30年10月にユニバーサルデザイン化のための改修が起債対象に加わったため、ユニバーサルデザイン化の推進方針を追加。

2. 県方針見直しの必要性

- ① 総務省通知(「令和3年度までの公共施設等総合管理計画の見直しに当たっての留意事項について」(令和3年1月26日付け総財務第6号)。以下、「留意事項通知」)等において、令和3年度中に個別施設計画の策定を踏まえた公共施設等総合管理計画の見直し・精緻化が求められている。
 ② 現在活用している公共施設等適正管理推進事業債(長寿命化債)は、公共施設等総合管理計画の記載内容等が適債性の要件となっている。
 長寿命化債の令和4年度以降のあり方は総務省により検討されているが、引き続き活用を前提に、留意事項通知にある内容を県方針へ対応させる。

3. 県方針見直しの基本的な考え方

- (1) 見直し時期等
 令和3年度中に、実施期間内における中間見直しを実施
 (2) 見直し内容
 留意事項通知において、「必須事項」*とされている事項について反映

※ 留意事項通知で「必須事項」とされている事項

基本的事項	<ul style="list-style-type: none"> 過去に行った対策の実績 施設保有量の推移 有形固定資産減価償却率の推移
維持管理・更新等に係る経費	<ul style="list-style-type: none"> 現在要している維持管理経費 施設を耐用年数経過時に単純更新した場合の見込み 長寿命化対策を反映した場合の見込み 長寿命化対策の効果額
公共施設等の管理に関する基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> 全庁的な取組体制の構築やPDCAサイクルの推進等に係る方針

4. 令和3年度見直しスケジュール(案)

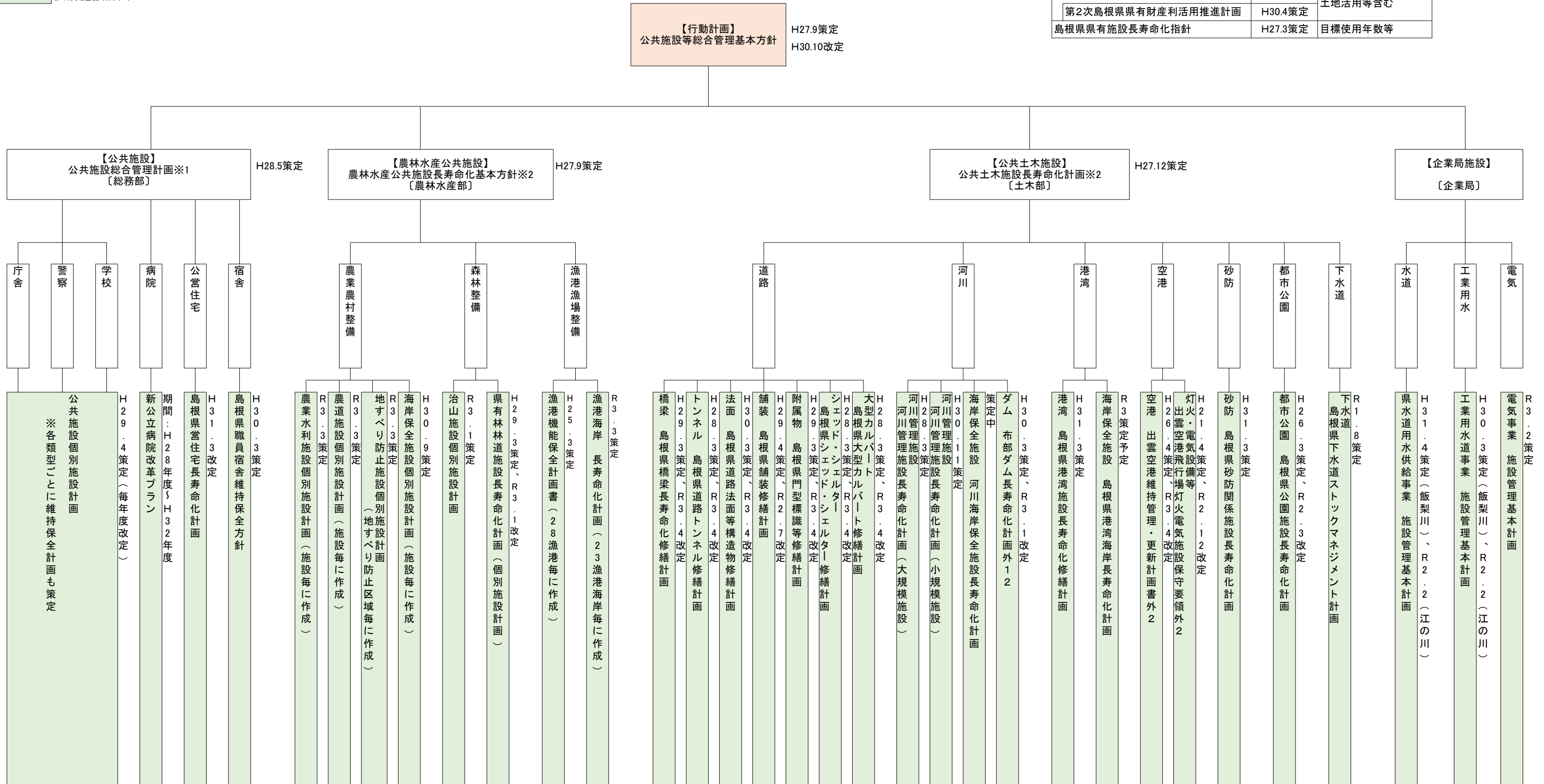
- 令和3年12月 11月議会(県方針(改定素案)の説明)
 令和4年 1月 パブリックコメント
 3月 2月議会(県方針(改定案)の報告)
 3月末 県方針(改定)の決定

島根県 公共施設等総合管理計画及び個別施設計画 体系図 (令和3年4月現在)

行動計画
個別施設計画

《参考》総務部において基本方針とは別に策定

島根県財産利活用方針	H26.4策定	土地活用等含む
第2次島根県県有財産利活用推進計画	H30.4策定	
島根県県有施設長寿命化指針	H27.3策定	目標使用年数等



※1 当初個別施設計画として位置付けていたが、起債届出の際に記載内容が不十分との総務省指摘により位置付けを変更したもの

※2 土木部及び農林水産部の個別施設計画については、長寿命化方針(計画)において、全体の施設を網羅的に記述し、各個別の施設区分(橋梁、ダム、農業水利施設等)ごとに具体的な施設計画を作成

地方分権改革の動き

1. 令和3年度 地方分権改革に関する国への提案

(1) 提案募集制度

- ① 地方の発意に根ざした新たな取組を推進するため平成26年度から導入
- ② 提案の対象
 - ア 地方公共団体への事務・権限の移譲
 - イ 地方に対する規制緩和（義務付け・枠付けの見直し及び必置規制の見直し）
- ③ 募集期間：令和3年2月25日～令和3年6月8日
- ④ 複数団体による共同提案を推奨

(2) 提案内容

「地方に対する規制緩和」12件

全て 中国地方知事会共同提案

うち②⑦は日本創生のための将来世代応援知事同盟としても共同提案

- ① 管理栄養士による居宅療養管理指導の普及に向けた基準の見直し
要介護者の自立支援・重度化防止に向けた適切な栄養管理のため、薬局の管理栄養士が居宅療養管理指導を実施できるよう、基準の見直しを求める。
- ② 児童入所施設措置費等国庫負担金の算出における里親支援専門相談員配置による加算対象施設の拡大
障がい児や心理ケアが必要な児童等にも対応した里親支援が可能となるよう、里親支援専門相談員の配置により国庫負担金が加算される施設に、障がい児入所施設や児童心理治療施設等を追加することを求める。
- ③ 地方創生推進交付金実施計画及び地域再生計画に係る事務の見直し
事務負担の軽減を図るため、両計画で重複する事項の省略化及び窓口の一本化を求める。

④ 地方創生推進交付金実施計画に係るスケジュールの見直し

実施計画の作成に向け、事前相談への国の回答から計画提出までの十分な検討期間の確保を求める。また、速やかな事業開始や不採択となった場合の代替事業の検討ができるよう、内示時期の前倒しを求める。

⑤ 公共事業等施行状況調査等の簡素化

事務負担の軽減を図るため、地方農政局から毎月依頼される公共事業等施行状況調査及び事業執行状況調査の簡素化を求める。

⑥ 消費・安全対策交付金のうち特別交付型交付金の要望調査の運用改善

交付金の利用促進を図るため、現場との調整など事業実施に向けた検討期間を十分に確保できるよう、照会から回答までのスケジュールの改善を求める。

⑦ 文化芸術による子供育成総合事業に係る申請・報告事務の効率化等

都道府県等からの推薦を受けて実施校等を決定する方法を取りやめ、学校からの申請により決定するとともに、申請内容の簡略化など、申請・報告事務の効率化等を求める。

⑧ 保健師等の業務従事状況に係る届出の見直し

事務負担の軽減を図るため、本人からではなく就業先からの届出や電子での届出が可能となるよう見直しを求める。

⑨ LP ガス運搬車に係る許可等の一本化

LP ガス運搬車の導入促進に向けた事業者の負担軽減や、行政の事務の効率化を図るため、液化石油ガス保安法上の許可を受けた場合は、許可基準が同一である高圧ガス保安法上の許可を不要とするよう求める。

⑩ 地方公共団体の取組を阻害しない形での旅券発給業務の電子申請の導入

旅券の電子申請システム整備に当たっては、住民の利便性向上のため、市町村への権限移譲を進めてきた各県の取組が後退しない設計とすることを求める。

⑪ 循環型社会形成推進交付金の事務の簡素化

国の予算区分毎に交付申請書や実績報告書を作成する必要があり、事務が煩雑化しているため、事業実施主体毎にまとめて作成できるよう簡素化を求める。

⑫ 送電施設等に営巣したカラスの卵及びヒナの除去に係る捕獲許可の見直し

事業者の負担軽減や緊急時の迅速な除去に向け、電気事業法に基づく手取りによる捕獲・採取については、許可を不要とすることを求める。

(3) 今後の予定

6月下旬～11月上旬 内閣府において提案内容について検討・調整

〔 地方分権改革有識者会議での調査審議
所管府省への検討要請・意見聴取
提案団体・地方三団体からの意見聴取 等 〕

11 月中下旬 地方分権改革有識者会議・提案募集検討専門部会で提案に対する対応方針案の了承

12 月中下旬 提案に対する対応方針決定（閣議決定）
法律改正が必要な事項は、所要の法律案を国会に提出

2. 地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（第11次地方分権一括法）

次頁のとおり

地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（第11次地方分権一括法）の概要

第11次地方分権一括法

「提案募集方式（※地方の発意に根差した取組を推進するため、平成26年から導入）」に基づく地方からの提案について、「令和2年の地方からの提案等に関する対応方針」（令和2年12月18日閣議決定）を踏まえ、地方公共団体に対する義務付け・枠付けの見直し等の関係法律の整備を行う。

改正内容

地方公共団体に対する義務付け・枠付けの見直し等（8改正事項(9法律)）

- ・ 地縁による団体について、不動産等を保有する予定の有無に関わらず、認可を可能に（地方自治法）
- ・ 転出届及び印鑑登録の廃止申請の受付等の事務について、郵便局において取り扱わせることを可能に
 - ┆（地方公共団体の特定の事務の郵便局における取扱いに関する法律）
- 15. 小規模多機能型居宅介護の利用定員に関する基準について、「従うべき基準」から「標準」に見直し（介護保険法）
- ・ 沿岸漁業改善資金について、転貸融資方式の導入及び漁業信用基金協会による債務保証を可能に
 - ┆（沿岸漁業改善資金助成法、中小漁業融資保証法）
- ・ 一級建築士の免許申請等に係る都道府県經由事務の廃止（建築士法）
- ・ 宅地建物取引業の免許申請等に係る都道府県經由事務の廃止（宅地建物取引業法）
- ・ 不動産鑑定業の登録申請等に係る都道府県經由事務等の廃止（不動産の鑑定評価に関する法律）
- ・ 積立式宅地建物販売業の許可申請等に係る都道府県經由事務の廃止（積立式宅地建物販売業法）

施行期日

(1) 直ちに施行できるもの → 公布の日

(2) (1)により難しい場合 → (1)以外の個別に定める日

県及び市町村における審議会等への女性の参画率

1 県における審議会等の女性の参画率

令和3年4月1日現在

部局	審議会等数	うち休止中、 委員不在等	委員実数 (人)		女性の 参画率 (%)	女性参画率 50%	
				うち女性 (人)		達成 審議会等数	未達成 審議会等数
政策企画局	2	0	38	20	52.6	2	0
総務部	10	1	54	28	51.9	9	0
防災部	5	2	213	88	41.3	0	3
地域振興部	6	3	38	16	42.1	1	2
環境生活部	14	1	192	97	50.5	9	4
健康福祉部	30	8	331	151	45.6	7	15
農林水産部	16	3	119	60	50.4	8	5
商工労働部	6	3	34	16	47.1	1	2
土木部	15	1	161	79	49.1	6	8
出納局	1	0	4	2	50.0	1	0
企業局	1	0	10	5	50.0	1	0
教育委員会	17	5	159	77	48.4	6	6
警察本部	2	0	95	42	44.2	1	1
合計	125	27	1,448	681	47.0	52	46
〈参考〉 R2. 4.1現在計	129	24	1,546	730	47.2	54	51
〈参考〉 H31. 4.1現在計	129	24	1,520	707	46.5	45	60

※数値には、「島根県附属機関等の設置及び構成員の選任等に関する条例」第3条で適用除外とした審議会等（2審議会等）は含まない。

今後の取組

第3次島根県男女共同参画計画に基づき、審議会等全体での女性の参画率50%達成に向けて取組んでいく。

【参考】第3次島根県男女共同参画計画における数値目標（令和3年度）
 県の審議会等への女性の参画率 … 50%

2 市町村における審議会等の女性の参画率

令和3年4月1日現在

市町村名	目標		審議会等数		委員実数 (人)	うち女性 (人)	女性参画率 (%)	
	目標年度	数値 (%)		うち女性を 含む審議会 等				R2.4.1 現在
松江市	R3	40	63	62	996	353	35.4	33.8
浜田市	R3	40	30	21	395	93	23.5	25.2
出雲市	R3	40	53	47	927	278	30.0	29.6
益田市	R7	40	55	50	840	245	29.2	29.4
大田市	R3	40	51	46	645	191	29.6	28.4
安来市	R6	40	52	35	693	152	21.9	23.8
江津市	R3	40	41	34	544	144	26.5	25.8
雲南市	R6	40	43	38	474	121	25.5	20.8
市 計			388	333	5,514	1,577	28.6	27.9
奥出雲町	R3	30	27	21	301	71	23.6	20.7
飯南町	R3	50	16	13	149	41	27.5	25.0
川本町	R3	40	25	18	223	45	20.2	18.4
美郷町	R3	25	28	20	283	61	21.6	21.6
邑南町	R8	30	39	31	534	130	24.3	24.5
津和野町	R5	40	43	36	469	117	24.9	24.8
吉賀町	R4	35	22	18	207	54	26.1	26.9
海士町	R3	15	18	12	152	22	14.5	13.2
西ノ島町	R10	30	23	16	156	31	19.9	19.9
知夫村	R3	20	14	11	90	16	17.8	14.3
隠岐の島町	R3	30	31	23	339	67	19.8	18.7
町村計			286	219	2,903	655	22.6	21.9
合 計			674	552	8,417	2,232	26.5	25.8

<参考> R2.4.1現在 合計	679	543	8,732	2,253	25.8
------------------	-----	-----	-------	-------	------

若年層（島根県出身者）の社会移動に関する実態調査

令和3年3月

島根県

目次

1. 事業概要.....	1
1-1 目的.....	1
1-2 調査の対象等.....	1
1-3 回答者の属性.....	2
2. アンケートの結果（設問毎の回答）.....	5
2-1 設問.....	5
2-2 結果.....	6
3. 分析.....	68
3-1 分析方針.....	68
3-2 分析結果.....	69
4. 考察および提案.....	91
4-1 各属性の傾向.....	91
4-2 考察.....	93
4-3 ターゲティングと課題の整理.....	95
4-4 施策の提案.....	96
5. 備考.....	99
5-1 アンケート回答者へのインセンティブ.....	99
5-2 協力（順不同）.....	99

1. 事業概要

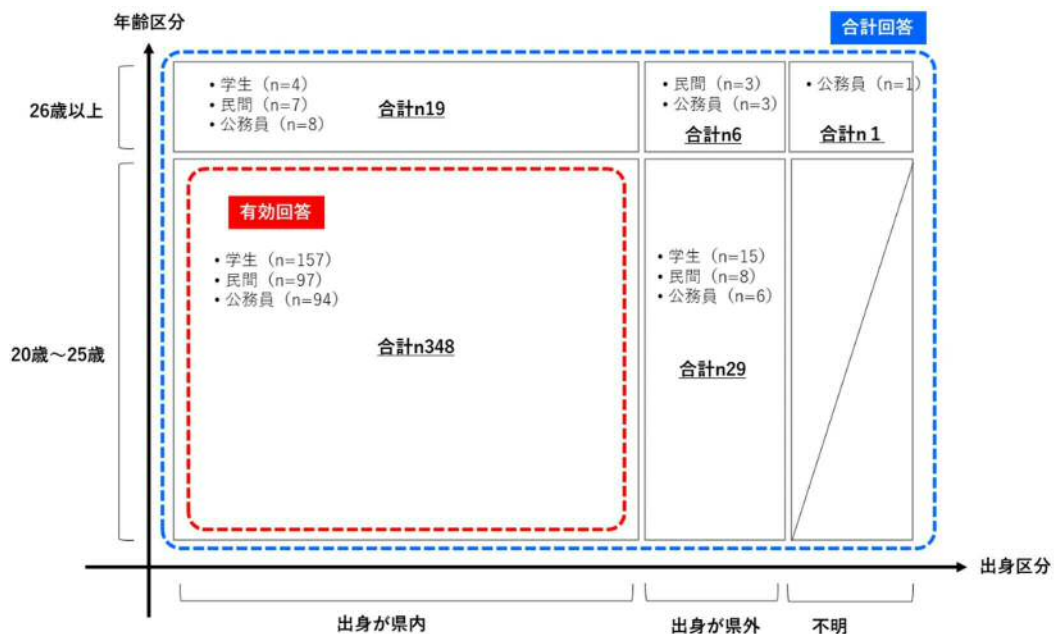
1-1 目的

若年層の社会移動に関する実態調査業務（以下、アンケート調査）の目的は、島根県の人口減少対策における課題である若年層の県外流出対策（県内就職の促進）に向けた施策展開の基礎資料とするため、島根県出身で概ね就職先が内定した学生、島根県内及び島根県外で就職した大学卒業後3年以内の若年層等を対象とした県内就職に対する若年層の意識や意思決定、支障要因等について調査・抽出・分析を行うことである。

1-2 調査の対象等

対象	島根県出身の、下記の者を対象とした。 概ね就職先が内定した者（概ね20～22歳） 大学卒業後3年以内の年齢に相当する者（概ね23～25歳）
調査方法	インターネット調査（しまね電子申請サービスを利用）
調査期間	令和3年2月17日～3月7日
合計回答数	403人
有効回答数	348人
協力	県内の民間企業、島根県、市町村、ふるさと島根定住財団、県立高校

なお、本調査における出身地とは、「18歳くらいまで最も長く住んでいた場所」を指す、と定義した。

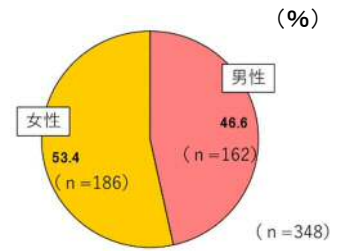


1-3 回答者の属性

アンケートの結果は、以下の属性毎に集計を行った。

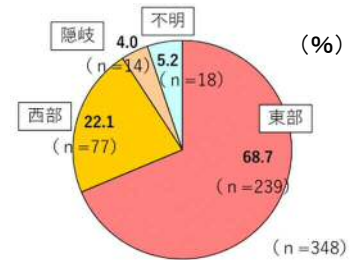
○性別

	男性	女性	合計
人数	162	186	348
割合	47%	53%	100%



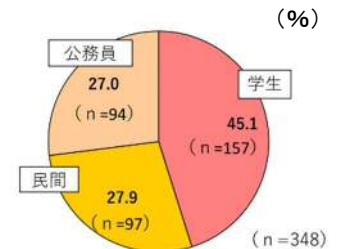
○出身地域

	東部	西部	隠岐	未回答	合計
人数	239	77	14	18	348
割合	69%	22%	4%	5%	100%



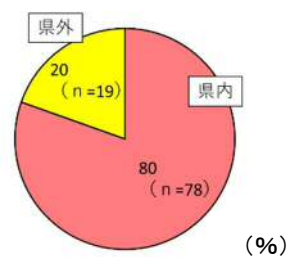
○職種（学生・民間・公務員）※便宜上、学生も職種として区分

	学生	社会人		合計
		民間	公務員	
人数	157	97	94	348
割合	45%	28%	27%	100%



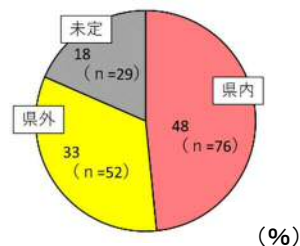
○社会人（民間のみ）の現在の居住地

	県内	県外	合計
人数	78	19	97
割合	80%	20%	100%



○学生の卒業後の居住地

	県内	県外	未定	合計
人数	76	52	29	157
割合	48%	33%	18%	100%

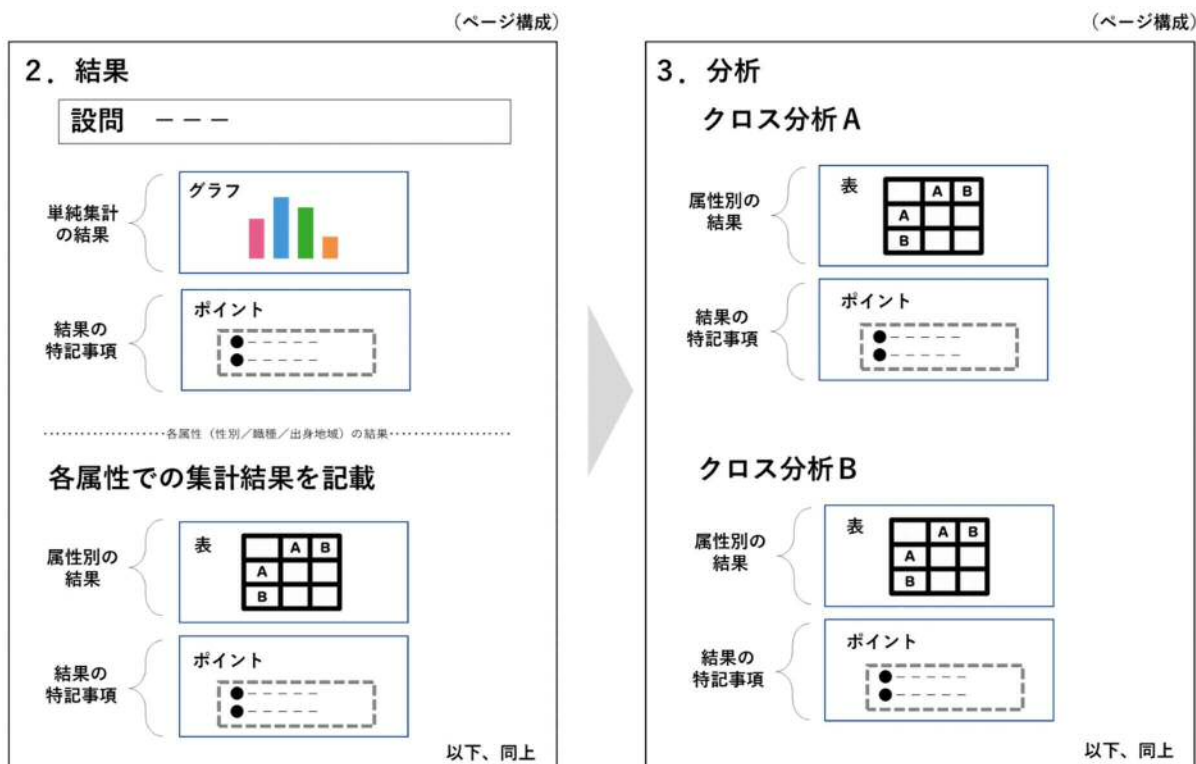


○県内・県外在住別でみた職種及び学生の卒業後の居住地（まとめ）

回答数 348 名	県内在住 236 名	学生 64 名	県内就職 45 名 70.3%
		社会人 172 名 (民間企業78名、公務員94名)	県外就職 7 名 10.9%
	県外在住 112 名	学生 93 名	進路未定 12 名 18.8%
		社会人 19 名 (全て民間企業)	県内就職 31 名 33.3%
			県外就職 45 名 48.4%
			進路未定 17 名 18.3%

次章から続く「2章 結果と3章 分析」の構成は下記の通りとした。

2章で各設問の単純集計並びに属性毎の集計を行い、3章では、後述する分析方針に則り、設問と設問のクロス分析を行った。



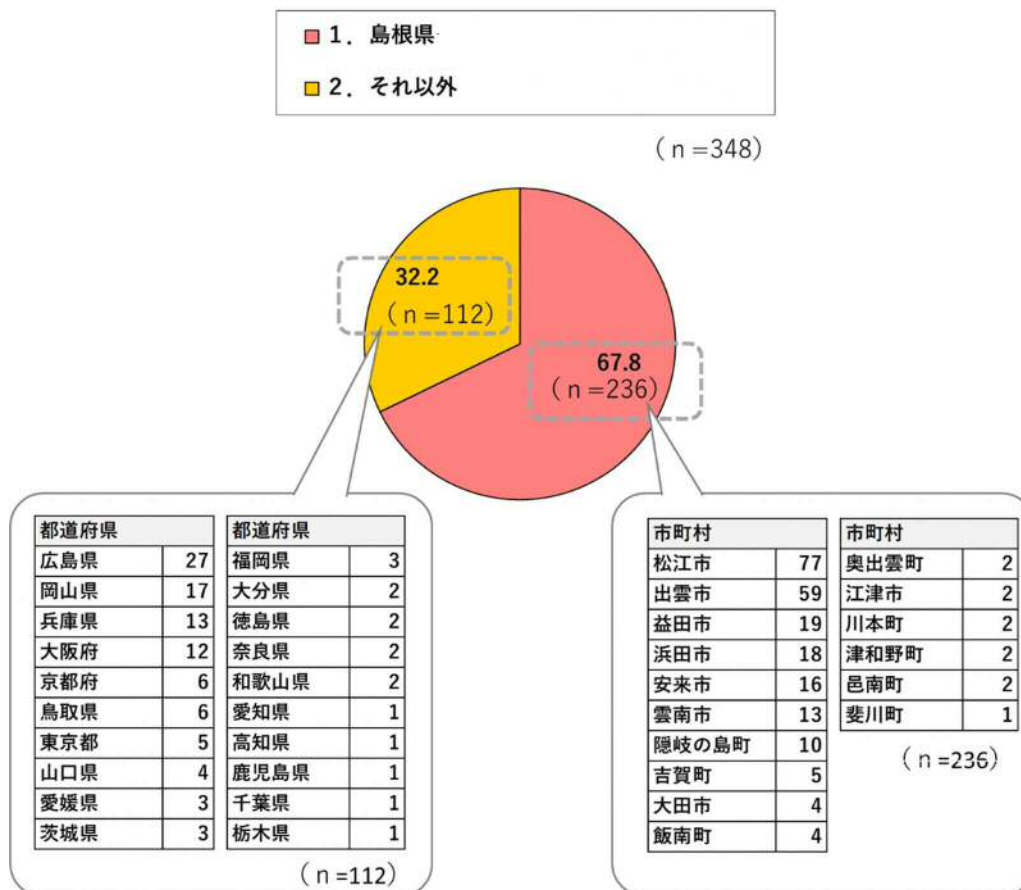
2. アンケートの結果（設問毎の回答）

2-1 設問

- 設問①：現在の居住地（都道府県）を教えてください
- 設問②：卒業後の居住予定地を教えてください
- 設問③：就職先を決定する際に、島根県で働くことについて、どのように考えましたか／考えますか
- 設問④：いつ、就職先や居住先の志望を持ちましたか
- 設問⑤：島根県では、様々な就職支援や就職啓発情報を発信していますが、就職先を決定する際（若しくは就職活動時）に、県やふるさと島根定住財団が発信している情報を参考としましたか
- 設問⑥：島根県内に就職を決めた理由を教えてください（現在の居住地を「島根県」と回答した方のみ）【複数回答】
- 設問⑦：将来、島根県に戻ることにについて、どのように考えていますか（現在の居住地を「島根県以外」と回答した方及び現在の居住地が島根県で卒業後の居住地を「島根県以外」と回答した方）
- 設問⑧：島根県に戻らない理由を教えてください（⑦で「戻るつもりはない」と回答した方）
- 設問⑨：島根県に戻りたい理由を教えてください（⑦で「いつかは戻りたいと考えている」と回答した方）【複数回答】
- 設問⑩：なぜそう思うか、教えてください（⑦で「どちらともいえない」と回答した方）
- 設問⑪：島根県に戻る場合、想定される時期を教えてください（⑦で「いつかは戻りたいと考えている」または「どちらともいえない」と回答した方）
- 設問⑫：島根県に戻る場合、想定される要件を教えてください（⑦で「いつかは戻りたいと考えている」または「どちらともいえない」と回答した方）【複数回答】
- 設問⑬：働く場について、就職先・居住先を選ぶ上で最も重要だと思うものをひとつ教えてください
- 設問⑭：生活環境について、就職先・居住先を選ぶ上で最も重要だと思うものをひとつ教えてください
- 設問⑮：就職先を選ぶ際の、働く場と生活環境のどちらに比重を置いていますか
- 設問⑯：就職先を判断した際/判断する際に、どのような条件があれば島根県内での就職を考えていましたか/考えますか
- 設問⑰：就職先決定の際に、最も影響を受けた人を教えてください
- 設問⑱：就職先決定の判断ポイントを教えてください【複数回答】
- 設問⑲：就職活動を行う際の、欲しい支援を教えてください【複数回答】
- 設問⑳：自由記載

2-2 結果

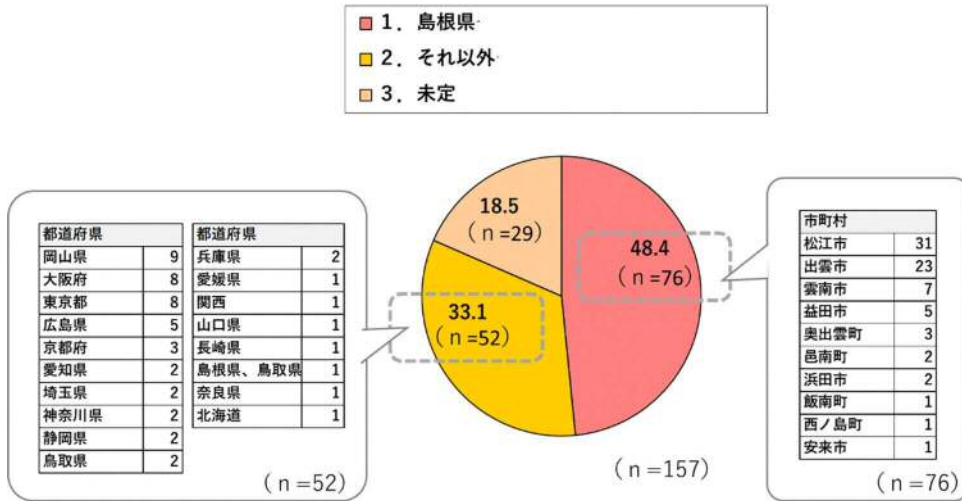
設問① 現在の居住地（都道府県）を教えてください



●回答者の居住地は、現在、島根県に居住している人が 67.8%、県外に居住している人が 32.2%。

●島根県出身者で県外在住の人は、広島県、岡山県、兵庫県の順に多く、県内在住者は、松江市、出雲市が多い。

設問② 卒業後の居住予定地を教えてください（学生のみ）
























●学生の卒業後の居住予定地は、島根県が 48.4%、県外に居住する予定が 33.1%、未定は 18.5%。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

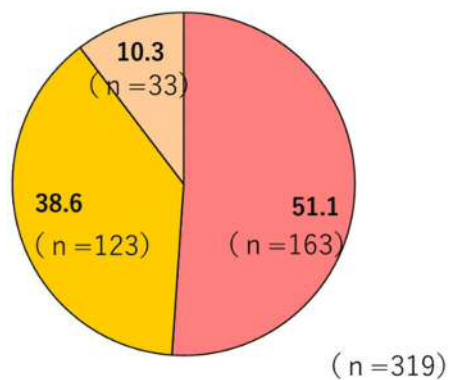
青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

（卒業後の予定地について）

	1 島根県	2 それ以外	3 未定	合計
全体	 48%	 33%	 18%	157
合計(n)	76	52	29	157
●性別				
男性	 48%	 33%	 19%	63
女性	 49%	 33%	 18%	94
合計(n)	76	52	29	157
●職種				
学生	 48%	 33%	 18%	157
民間	0%	0%	0%	0
公務員	0%	0%	0%	0
合計(n)	76	52	29	157
●出身地域				
東部	 51%	 29%	 20%	112
西部	 35%	 53%	 12%	34
隠岐	100%	0%	0%	2
不明	 56%	 11%	 33%	9
合計(n)	76	52	29	157

- 卒業後の予定地は、性別では傾向に差は見られない。
- 出身地域が県内西部の人は、東部と比べると卒業後に県内ではなく県外に居住する傾向にある。

設問③ 就職先を決定する際に、島根県で働くことについて、どのように考えましたか／考えますか



- 1. 島根県内で就職したいと考えていた
- 2. 候補地の一つと考えていた
- 3. 島根県内は就職先としては考えていなかった

● 「島根県内で就職したいと考えていた」が51.1%で最も多く、次いで「候補地の一つと考えていた」が約38.6%。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

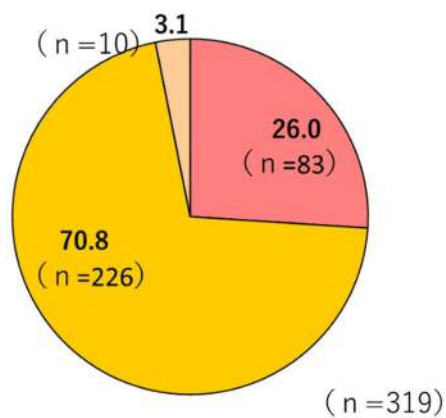
（島根県で働くことについて）

	1 島根県内で就職したいと考えていた	2 候補地の一つと考えていた	3 島根県内は就職先としては考えていなかった	合計(n)
全体	51%	39%	10%	319
合計(n)	163	123	33	319
●性別				
男性	49%	41%	9%	150
女性	53%	36%	11%	169
合計(n)	163	123	33	319
●職種				
学生	48%	37%	16%	128
民間	52%	39%	9%	97
公務員	55%	40%	4%	94
合計(n)	163	123	33	319
●出身地域				
東部	52%	39%	9%	217
西部	45%	40%	15%	73
隠岐	64%	29%	7%	14
不明	53%	33%	13%	15
合計(n)	163	123	33	319
●社会人（現在の居住地）				
県内	63%	35%	3%	78
県外	5%	58%	37%	19
合計(n)	50	38	9	97
●学生（卒業後の居住地）				
県内	74%	26%	0%	76
県外	10%	52%	38%	52
合計(n)	61	47	20	128

●性別、職種では、県内就職の意向について傾向に差はほとんど見られない。

●出身地域が隠岐の人は、東部や西部と比べ、県内就職の意向が高い。

設問④ いつ、就職先や居住先の志望を持ちましたか



- 1. 高校生のときにはすでに志望していた
- 2. 就職活動時に志望した
- 3. まだ迷っている

● 「就職活動時に志望した」が 70.8%で最も多く、次いで「高校生のときにはすでに志望していた」が 26.0%、「まだ迷っている」が 3.1%。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

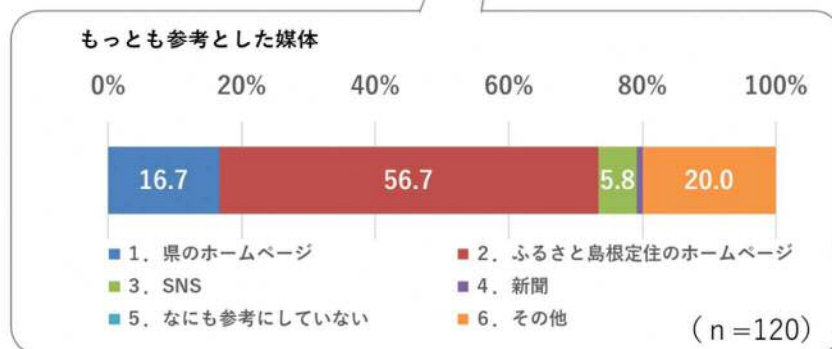
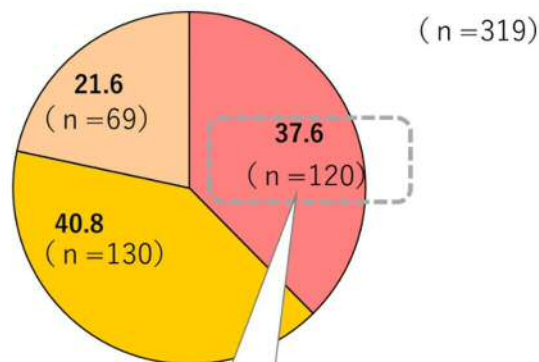
(いつ、就職先や居住先の志望を持ったか)

	1	2	3	合計(n)
	高校生のときにはすでに志望していた	就職活動時に志望した	まだ迷っている	
全体	26%	71%	3%	319
合計(n)	83	226	10	319
●性別				
男性	24%	73%	3%	150
女性	28%	69%	3%	169
合計(n)	83	226	10	319
●職種				
学生	27%	69%	4%	128
民間	22%	73%	5%	97
公務員	29%	71%	0%	94
合計(n)	83	226	10	319
●出身地域				
東部	23%	74%	3%	217
西部	33%	63%	4%	73
隠岐	29%	71%	0%	14
不明	33%	60%	7%	15
合計(n)	83	226	10	319
●社会人（現在の居住地）				
県内	23%	73%	4%	78
県外	16%	74%	11%	19
合計(n)	21	71	5	97
●学生（卒業後の居住地）				
県内	34%	63%	3%	76
県外	17%	77%	6%	52
合計(n)	35	88	5	128

- 出身地域が県内東部の人、高校のときに志望する割合が、若干ではあるものの低い傾向にある。
- 県内の社会人は、高校のときに志望する割合が、県外の社会人より高い傾向にある。
- 卒業後に県内で居住する学生は、高校のときに志望する割合が、卒業後に県外で居住する学生より高い傾向にある。

設問⑤ 島根県では、様々な就職支援や就職啓発情報を発信していますが、就職先を決定する際（若しくは就職活動時）に、県やふるさと島根定住財団が発信している情報を参考としましたか

- 1. 参考にした
- 2. 存在は知っているが、参考にしなかった
- 3. 存在すら知らない













































- 「存在は知っているが、参考にしなかった」が 40.8%で最も多く、次いで「参考にした」が 37.6%、「存在すら知らない」が 21.6%。
- 「参考にした人」が最も参考とした媒体は、「ふるさと島根定住のホームページ」が 56.7%で最も多い。県のホームページは 16.7%。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

(県や定住財団からの情報を参考にしたか)

	1	2	3	合計(n)
	参考にした	存在は知っているが、参考にしなかった	存在すら知らない	
全体	 38%	 41%	 22%	319
合計(n)	120	130	69	319
●性別				
男性	 37%	 35%	 27%	150
女性	 38%	 46%	 17%	169
合計(n)	120	130	69	319
●職種				
学生	 36%	 57%	 7%	128
民間	 36%	 28%	 36%	97
公務員	 41%	 32%	 27%	94
合計(n)	120	130	69	319
●出身地域				
東部	 45%	 41%	 15%	217
西部	 19%	 47%	 34%	73
隠岐	 7%	 36%	 57%	14
不明	 53%	 20%	 27%	15
合計(n)	120	130	69	319
●社会人（現在の居住地）				
県内	 32%	 29%	 38%	78
県外	 53%	 21%	 26%	19
合計(n)	35	27	35	97
●学生（卒業後の居住地）				
県内	 43%	 51%	 5%	76
県外	 25%	 65%	 10%	52
合計(n)	46	73	9	128

- 学生は、社会人と比べ、県や定住財団の情報があることは知っていてもあまり参考にはしない。
- 出身地域が県内東部は、西部や隠岐と比べ、県や定住財団の情報を参考にする。隠岐は、県や定住財団の情報の存在すら知らない人が多い。
- 県内の社会人は、県や定住財団の情報を参考にする傾向にある。一方で、存在は知っているが参考にしない人の割合も、県内の社会人が高い。
- 卒業後に県内で居住する学生は、県や定住財団の情報を参考にする傾向にある。

(参考とした人が最も参考とした媒体)

	1 県のホームページ	2 ふるさと島根定住のホームページ	3 SNS	4 新聞	5 なにも参考にしていない	6 その他	合計(n)
全体	17%	57%	6%	1%	0%	20%	120
合計(n)	20	68	7	1	0	24	120
●性別							
男性	14%	63%	9%	2%	0%	13%	56
女性	19%	52%	3%	0%	0%	27%	64
合計(n)	20	68	7	1	0	24	120
●職種							
学生	15%	50%	11%	2%	0%	22%	46
民間	3%	83%	3%	0%	0%	11%	35
公務員	31%	41%	3%	0%	0%	26%	39
合計(n)	20	68	7	1	0	24	120
●出身地域							
東部	19%	55%	7%	0%	0%	20%	97
西部	0%	64%	0%	7%	0%	29%	14
隠岐	100%	0%	0%	0%	0%	0%	1
不明	13%	75%	0%	0%	0%	13%	8
合計(n)	20	68	7	1	0	24	120
●社会人（現在の居住地）							
県内	4%	76%	4%	0%	0%	16%	25
県外	0%	100%	0%	0%	0%	0%	10
合計(n)	1	29	1	0	0	4	35
●学生（卒業後の居住地）							
県内	21%	52%	9%	3%	0%	15%	33
県外	0%	46%	15%	0%	0%	38%	13
合計(n)	7	23	5	1	0	10	46

●民間社会人は、学生や公務員と比べ、定住財団のホームページを参考とする傾向がある。

●県外の社会人は、定住財団のホームページを参考とする傾向がある。

設問⑥ 島根県内に就職を決めた理由を教えてください（現在の居住地を「島根県」と回答した方及び現在の居住地が「島根県外」で卒業後の居住予定地を「島根県」と回答した方）【複数回答】



●「島根（出身市町村）が好きだから」が61.3%で最も多く、次いで、「父母等の島根県に居て欲しいという希望があるから」が29.4%、「長男・長女であるから」19.0%と続く。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

(県内就職を決めた理由)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計(n)
	島根（出身市町村）が好きだから	長男・長女であるから	父母等の島根県に居て欲しいという希望があるから	島根県にやりたい仕事があるから	島根県でやりたいことがあるから	島根県で暮らしたいから、島根県の暮らしに魅力があるから	県外（都会）で暮らしたくないから	島根県以外で就職するつもりがないから	その他	
全体	61%	19%	29%	10%	4%	11%	13%	13%	10%	248
合計(n)	152	47	73	25	11	27	32	33	26	248
●性別										
男性	59%	24%	27%	11%	4%	10%	11%	12%	12%	119
女性	64%	15%	32%	9%	5%	12%	15%	15%	9%	129
合計(n)	152	47	73	25	11	27	32	33	26	248
●職種										
学生	67%	24%	25%	13%	8%	14%	12%	20%	4%	76
民間	59%	18%	28%	9%	3%	12%	13%	15%	10%	78
公務員	59%	16%	34%	9%	3%	7%	14%	6%	16%	94
合計(n)	152	47	73	25	11	27	32	33	26	248
●出身地域										
東部	66%	19%	30%	12%	3%	11%	13%	12%	9%	172
西部	52%	22%	26%	4%	8%	8%	14%	16%	14%	50
隠岐	54%	23%	38%	0%	8%	8%	8%	15%	15%	13
不明	38%	0%	23%	23%	8%	23%	8%	23%	8%	13
合計(n)	152	47	73	25	11	27	32	33	26	248
●社会人（現在の居住地）										
県内	59%	18%	28%	9%	3%	12%	13%	15%	10%	78
県外	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
合計(n)	46	14	22	7	2	9	10	12	8	78
●学生（卒業後の居住地）										
県内	67%	24%	25%	13%	8%	14%	12%	20%	4%	76
県外	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
合計(n)	51	18	19	10	6	11	9	15	3	76

- 属性別には、全体的な傾向の差はほとんど見られない。
- 出身地域が東部の人、西部や隠岐と比べ、若干ではあるものの、「島根が好きだから」の割合が高い。

●「県外で暮らしたくないから」の理由 (n=32)

男性の回答		職種	出身地域
1	親や祖父母に何かあった時に対応できない	民間	東部
2	人の多いところが苦手なので	学生	東部
3	人混みが多いところでは自分が埋もれそうだから	学生	東部
4	満員電車にはなりたくなかった	学生	東部
5	人が多いところや、がやがやしているところが苦手	民間	西部
6	人が多く、他人行儀感が強い	民間	西部
7	車生活が楽	民間	東部
8	人が多いところが苦手	学生	東部
9	持病の都合上	公務員	東部
10	車を所有したいから・人が多いところが苦手であるから	公務員	西部
11	大学時代に東京にいたが満員電車が苦手だったから	公務員	東部
12	慣れ親しんだ土地で生活したかった	公務員	西部
13	人が密集しているのが嫌だから	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
14	県民性が合わない	学生	東部
15	不慣れ	民間	東部
16	満員電車がしんどいから。	学生	東部
17	人が多いところが苦手	学生	西部
18	県外で住と疲れそうだから	民間	不明
19	公共交通機関による移動範囲が広く、自分の時間を作りにくい環境	民間	東部
20	騒がしいところが合わない	民間	西部
21	生活費が高くなるため	民間	東部
22	人が多い	民間	東部
23	人が多い。高層の建物が多くて空が狭い。	学生	東部
24	都会は旅行や観光などたまに訪れるので十分だから。	学生	東部
25	満員電車での長時間の通勤が向いてないと思ったため	公務員	東部
26	人が多過ぎるところが苦手なため	公務員	東部
27	住みにくそうだから	公務員	東部
28	満員電車での通勤が嫌だった	公務員	東部
29	満員電車で通勤するのが嫌だった。	公務員	東部
30	人混みが苦手	公務員	西部
31	都会の暮らしが合わないから	公務員	東部
32	老後は島根で暮らしたかったから	公務員	隠岐

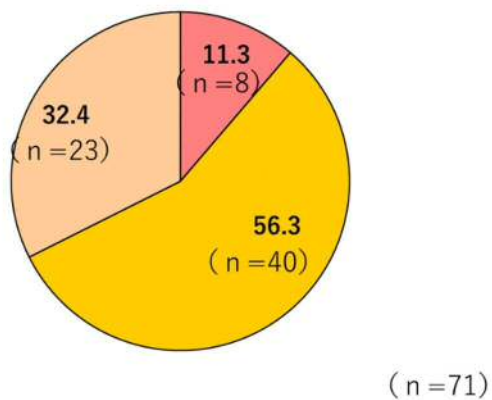
●「島根県で暮らしたいから、暮らしに魅力があるから」の理由 (n=27)

男性の回答		職種	出身地域
1	居心地が良いから	民間	東部
2	豊かな自然と馴染んだ環境のもとで働き、自分の知識を深めたい	学生	東部
3	自然の中でのびのびとした生活ができるから	学生	東部
4	祖父母の近くにいたいから	民間	西部
5	地域の人との交流があるところ	民間	西部
6	田舎に住みたいと思っていたから	学生	東部
7	島根の未来を明るくしたいから	学生	不明
8	生まれ育ったところで仕事がしたい	学生	東部
9	慣れ親しんだ土地だから	民間	不明
10	豊かな自然の中でのびのびと生活したい。	公務員	東部
11	住み慣れた市・町で生活すると安心するから	公務員	西部
12	環境（水、空気、食べ物）が私自身に合っているからです。	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
13	島根が好きだから	民間	東部
14	人があたたかい	学生	西部
15	家族や仲の良い友人が島根にいるから	学生	東部
16	友達がみんな島根で就職してるから	民間	不明
17	田舎過ぎず都会過ぎずちょうどいいから。	民間	東部
18	実家が近いから	民間	東部
19	実家に近い所で暮らしたい	民間	東部
20	一人暮らしが不安だったから	学生	東部
21	自然が近くにあって落ち着く。住み慣れて愛着がある。	学生	東部
22	住みやすいから。	学生	東部
23	田舎で人が優しいから。	学生	隠岐
24	結婚・子育てをするには、島根で。と思っていた。	公務員	東部
25	実家で暮らしたいから。	公務員	東部
26	将来家庭を持ったときに、島根で子育てしたいと思ったから。	公務員	東部
27	知り合いがいて安心感があるため	公務員	東部

●「島根県でやりたい仕事があるから」の理由 (n=11)

男性の回答		職種	出身地域
1	高校魅力化事業を盛り上げたいから	学生	東部
2	石見神楽の伝統継承	民間	西部
3	島根の未来を明るくしたいから	学生	不明
4	松江市を盛り上げていきたい	学生	東部
5	森林資源を有効活用したい。	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
6	地元の保育施設で幼少期の食の大切さを伝えたいと思っていたから	民間	西部
7	まちづくり、地域の活性化	学生	西部
8	実家でお金を貯める	学生	東部
9	小学校教員	学生	東部
10	益田市の人づくり政策に興味があったため	公務員	西部
11	隠岐の島町をもっと素敵なおとこにしたい	公務員	隠岐

設問⑦ 将来、島根県に戻ることに、どのように考えていますか（現在の居住地を「島根県以外」と回答した方及び現在の居住地が島根県で卒業後の居住地を「島根県以外」と回答した方）



- 1. 戻るつもりはない
- 2. いつかは戻りたいと考えている
- 3. どちらともいえない

● 「いつかは戻りたいと考えている」が 56.3%で最も多く、「戻るつもりはない」は 11.3%。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

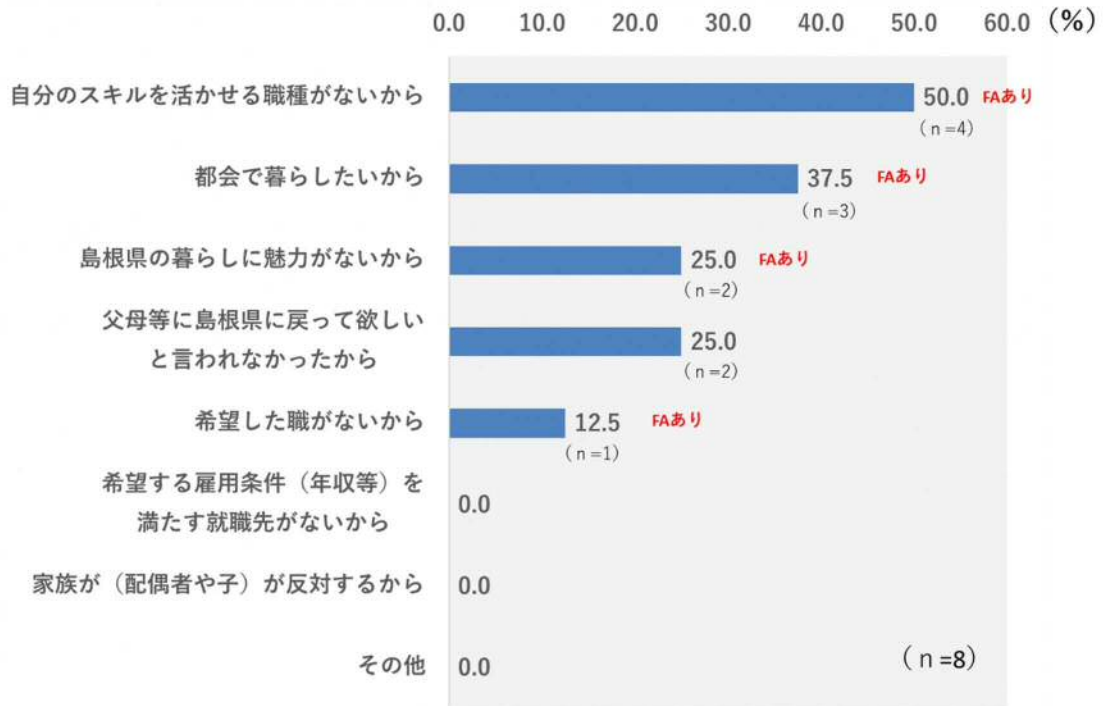
青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

(将来、島根に戻ることにについて)

	1 戻るつもりはない	2 いつかは戻りたいと考えている	3 どちらともいえない	合計(n)
全体	11%	56%	32%	71
合計(n)	8	40	23	71
●性別				
男性	10%	61%	29%	31
女性	13%	53%	35%	40
合計(n)	8	40	23	71
●職種				
学生	10%	56%	35%	52
民間	16%	58%	26%	19
公務員	0%	0%	0%	0
合計(n)	8	40	23	71
●出身地域				
東部	7%	62%	31%	45
西部	13%	52%	35%	23
隠岐	100%	0%	0%	1
不明	50%	0%	50%	2
合計(n)	8	40	23	71
●社会人（現在の居住地）				
県内	0%	0%	0%	0
県外	16%	58%	26%	19
合計(n)	3	11	5	19
●学生（卒業後の居住地）				
県内	0%	0%	0%	0
県外	10%	56%	35%	52
合計(n)	5	29	18	52

●いつかは島根に戻りたいと回答した人が最も多いが、属性別には、全体的な傾向の差はほとんど見られない。

設問⑧ 島根県に戻らない理由を教えてください(⑦で「戻るつもりはない」と回答した方)



●「自分のスキルを活かせる職種がないから」が50.0%で最も多く、次いで「都会で暮らしたいから」が37.5%と続く。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

n数が少ないため参考

	1	2	3	4	5	6	7	8	
	希望した職がないから	自分のスキルを活かせる職種がないから	希望する雇用条件（年収等）を満たす就職先がないから	都会で暮らしたいから	島根県の暮らしに魅力がないから	父母等に島根県に戻って欲しいと言われなかったから	家族が（配偶者や子）が反対するから	その他	合計(n)
全体	13%	50%	0%	38%	25%	25%	0%	0%	8
合計(n)	1	4	0	3	2	2	0	0	8
●性別									
男性	0%	33%	0%	33%	67%	33%	0%	0%	3
女性	20%	60%	0%	40%	0%	20%	0%	0%	5
合計(n)	1	4	0	3	2	2	0	0	8
●職種									
学生	20%	60%	0%	40%	0%	20%	0%	0%	5
民間	0%	33%	0%	33%	67%	33%	0%	0%	3
公務員	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
合計(n)	1	4	0	3	2	2	0	0	8
●出身地域									
東部	33%	33%	0%	33%	33%	0%	0%	0%	3
西部	0%	67%	0%	33%	0%	33%	0%	0%	3
隠岐	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	1
不明	0%	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	1
合計(n)	1	4	0	3	2	2	0	0	8
●社会人（現在の居住地）									
県内	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
県外	0%	33%	0%	33%	67%	33%	0%	0%	3
合計(n)	0	1	0	1	2	1	0	0	3
●学生（卒業後の居住地）									
県内	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
県外	20%	60%	0%	40%	0%	20%	0%	0%	5
合計(n)	1	3	0	2	0	1	0	0	5

● 「自分のスキルを活かせる職種がないから」と回答した人の職種 (n=4)

男性の回答		職種	出身地域
1	IT	民間	不明
女性の回答		職種	出身地域
2	中国料理	学生	西部
3	総合商社	学生	東部
4	管理栄養士	学生	西部

● 「希望した職がないから」と回答した人の希望職種 (n=1)

女性の回答		職種	出身地域
1	メーカー	学生	東部

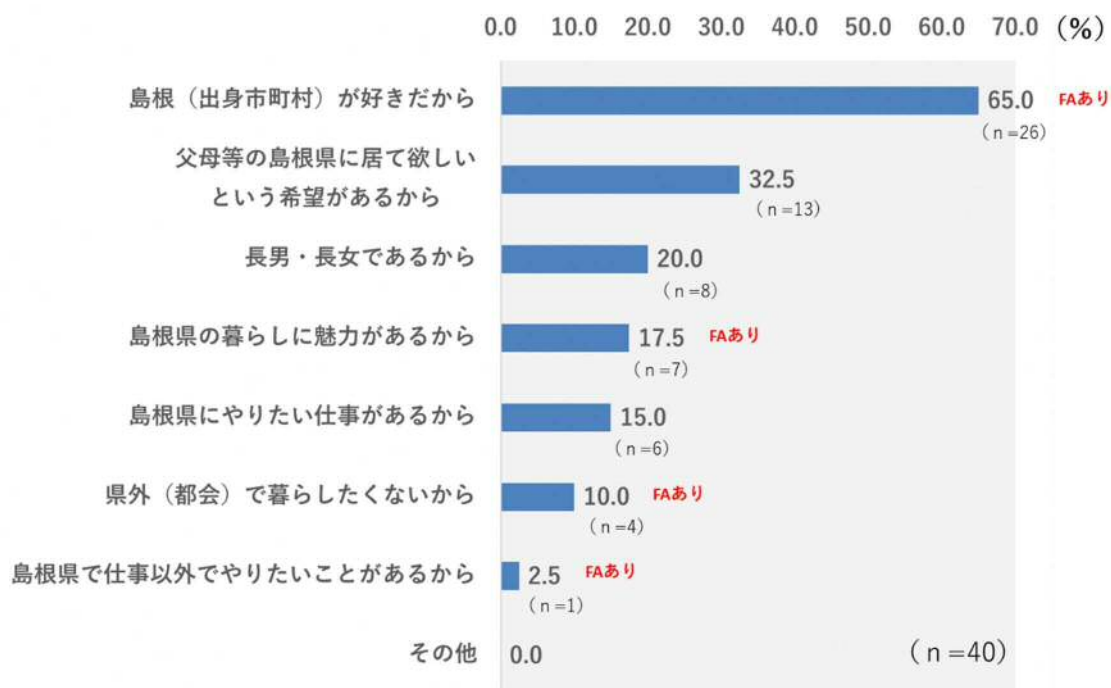
● 「都会で暮らしたいから」と回答した人の希望地 (n=3)

男性の回答		職種	出身地域
1	大阪府・東京	民間	不明
女性の回答		職種	出身地域
2	東京都	学生	東部
3	東京都	学生	西部

● 「島根の暮らしに魅力がないから」と回答した人の理由 (n=2)

男性の回答		職種	出身地域
1	ラウンドワンが無い	民間	不明
2	地方都市へのアクセスが弱い	民間	東部

設問⑨ 島根県に戻りたい理由を教えてください（⑦で「いつかは戻りたいと考えている」と回答した方）【複数回答】



●「島根（出身市町村）が好きだから」が65.0%で最も多く、次いで「父母等の島根県に居て欲しいという希望があるから」が32.5%、「長男・長女であるから」が20.0%と続く。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

（島根に戻りたい理由）

	1	2	3	4	5	6	7	8	合計(n)
	島根（出身市町村）が好きだから	長男・長女であるから	う希望があるから 父母等の島根県に居て欲しいとい	島根県にやりたい仕事があるから	島根県で仕事以外でやりたいことがあるから	島根県の暮らしに魅力があるから	ら 県外（都会）で暮らしたくないから	その他	
全体	65%	20%	33%	15%	3%	18%	10%	0%	40
合計(n)	26	8	13	6	1	7	4	0	40
●性別									
男性	58%	32%	11%	21%	5%	21%	16%	0%	19
女性	71%	10%	52%	10%	0%	14%	5%	0%	21
合計(n)	26	8	13	6	1	7	4	0	40
●職種									
学生	59%	17%	38%	17%	0%	17%	7%	0%	29
民間	82%	27%	18%	9%	9%	18%	18%	0%	11
公務員	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
合計(n)	26	8	13	6	1	7	4	0	40
●出身地域									
東部	64%	14%	36%	11%	4%	25%	14%	0%	28
西部	67%	33%	25%	25%	0%	0%	0%	0%	12
隠岐	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
不明	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
合計(n)	26	8	13	6	1	7	4	0	40
●社会人（現在の居住地）									
県内	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
県外	82%	27%	18%	9%	9%	18%	18%	0%	11
合計(n)	9	3	2	1	1	2	2	0	11
●学生（卒業後の居住地）									
県内	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
県外	59%	17%	38%	17%	0%	17%	7%	0%	29
合計(n)	17	5	11	5	0	5	2	0	29

●女性は、「親の希望により島根に戻りたい」の傾向が高く、男性は「長男であること」を理由に挙げている。

●「島根が好きだから」と回答した人の理由 (n=26)

男性の回答		職種	出身地域
1	奨学金の制度の為	民間	西部
2	ネット環境のみで仕事ができるため、偶然にも実家が島根県あるか	民間	不明
3	就職がきまってしまったから	民間	東部
4	何となく	民間	東部
5	今働いている企業以外に内定をもらえなかったから	民間	東部
6	就職先が島根県であったので	学生	東部
7	体調が悪かったから	公務員	西部
8	何故か島根を出るという考えが無かった。面倒だったのかも。	公務員	東部
9	実家があるから	公務員	東部
10	試験に合格したから	公務員	東部
11	居住地のため	公務員	東部
12	就職地の希望はなく、決まった就職先が島根であったため	公務員	隠岐
13	他の県庁の採用方針が不透明だったから	公務員	東部
14	第一志望としていた採用試験に落ちたため	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
15	他の県での就職に失敗したから	民間	東部
16	家族の側で暮らしたかった	民間	東部
17	進学先が島根だから	学生	東部
18	両親のことが気にかかったから	民間	西部
19	奨学金	学生	東部
20	祖父母が心配だった	公務員	東部
21	内定をもらえたから	公務員	西部
22	結婚相手が島根県内にいるため	公務員	西部
23	家族や友人が島根にいるから。	公務員	西部
24	家庭の不安、心身の健康面の為	公務員	不明
25	公務員試験を受けて合格したら県内で働くつもりだったから。	公務員	西部
26	家庭の状況を踏まえて	公務員	東部

●「島根の暮らしに魅力があるから」と回答した人の理由 (n=7)

男性の回答		職種	出身地域
1	外で思いっきり子どもを遊ばせられる	民間	東部
2	自分の故郷をもっと色々な人にアピールしたい	学生	東部
3	人が多すぎない	学生	東部
4	自然が豊か	学生	東部
女性の回答		職種	出身地域
5	自然が豊か。勤務時間	民間	東部
6	豊かな自然	学生	東部
7	人がいい	学生	東部

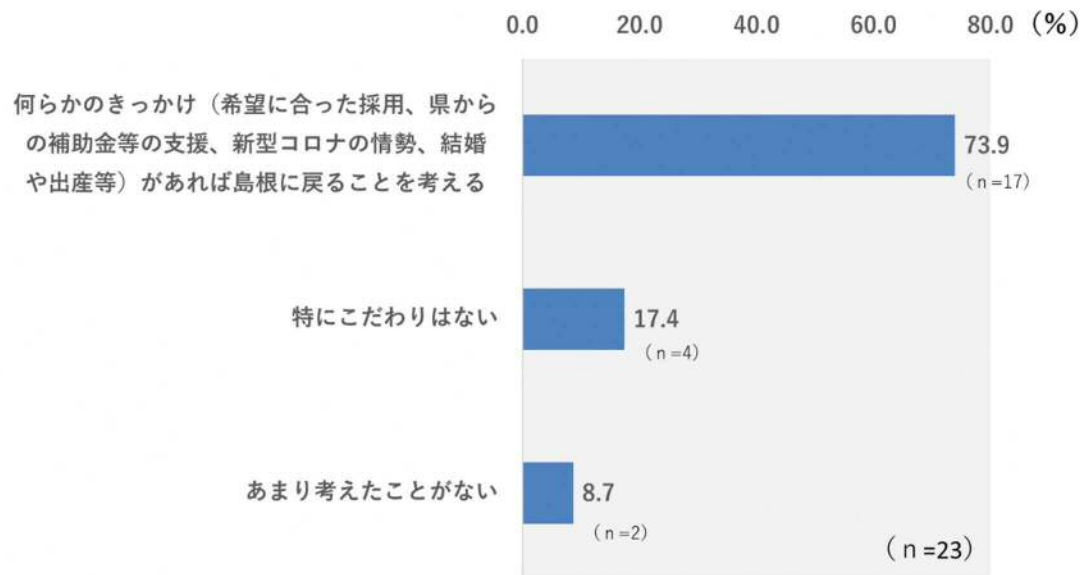
●「県外（都会）で暮らしたくないから」と回答した人の理由 (n=4)

男性の回答		職種	出身地域
1	変な人が多い	民間	東部
2	路線に縛られた生活から解放されるから	学生	東部
3	排気ガスが多いから	学生	東部
女性の回答		職種	出身地域
4	残業が多い。平均 40 時間。	民間	東部

●「島根で仕事以外でやりたいことがあるから」と回答した人の理由 (n=1)

男性の回答		職種	出身地域
1	子育て	民間	東部

設問⑩ なぜそう思うか、教えてください（⑦で「どちらともいえない」と回答した方）



● 「何らかのきっかけがあれば島根に戻ることを考える」が 73.9%で最も多い。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

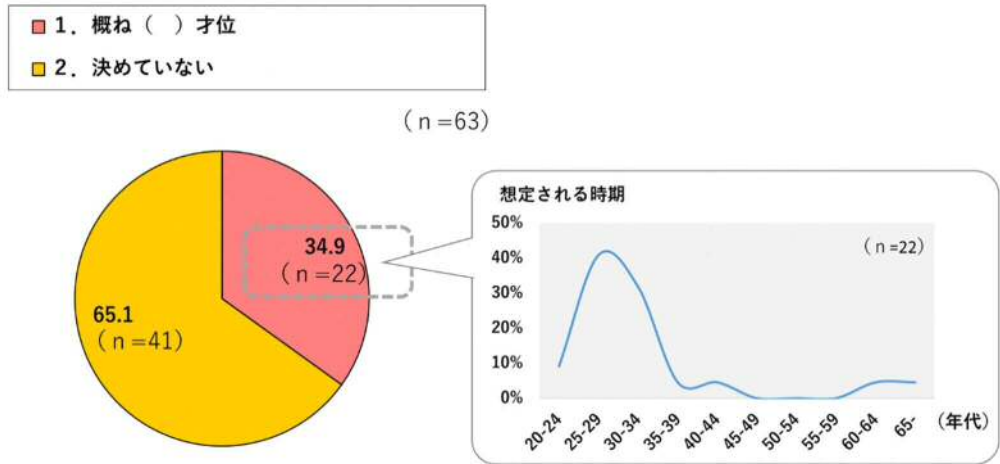
青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

（島根に戻ることにについて、「どちらともいえない」の理由）

	1 あまり考えたことがない	2 特にこだわりはない	3 何らかのきっかけがあれば島根に戻ることを考える	合計(n)
全体	9%	17%	74%	23
合計(n)	2	4	17	23
●性別				
男性	11%	22%	67%	9
女性	7%	14%	79%	14
合計(n)	2	4	17	23
●職種				
学生	11%	11%	78%	18
民間	0%	40%	60%	5
公務員	0%	0%	0%	0
合計(n)	2	4	17	23
●出身地域				
東部	0%	14%	86%	14
西部	25%	25%	50%	8
隠岐	0%	0%	0%	0
不明	0%	0%	100%	1
合計(n)	2	4	17	23
●社会人（現在の居住地）				
県内	0%	0%	0%	0
県外	0%	40%	60%	5
合計(n)	0	2	3	5
●学生（卒業後の居住地）				
県内	0%	0%	0%	0
県外	11%	11%	78%	18
合計(n)	2	2	14	18

●島根に戻ることにについて、どちらともいえないと回答した人は、何らかのきっかけがあれば島根に戻ると考え、特に出身地域が県内東はその傾向がある。

設問⑪ 島根県に戻る場合、想定される時期を教えてください
 (⑦で「いつかは戻りたいと考えている」または「どちらともいえない」と回答した方)






















- 「いつ島根に戻るか決めていない」が65.1%で、戻る時期を決めている人は、20代から30代にかけて戻る意向が多かった。
- 40代や50代で戻りたい意向の人はほぼ居ない。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

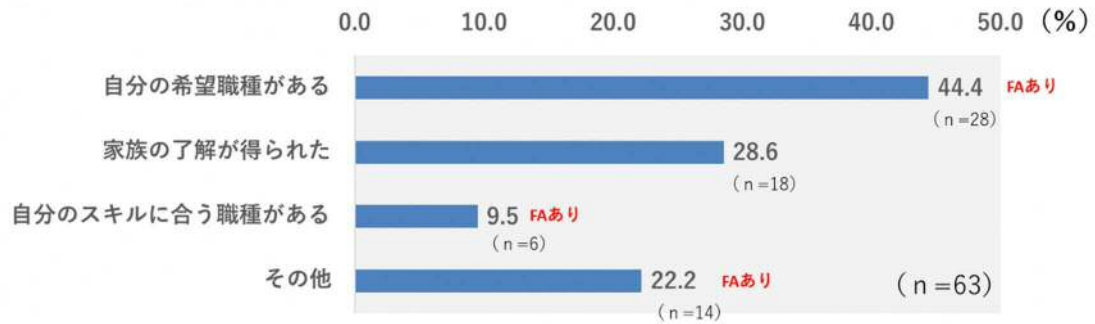
青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

(いつか島根にもどるとした場合)

	1		2		合計(n)
	概ね () 才位		決めていない		
全体		35%		65%	63
合計(n)		22		41	63
●性別					
男性		46%		54%	28
女性		26%		74%	35
合計(n)		22		41	63
●職種					
学生		32%		68%	47
民間		44%		56%	16
公務員		0%		0%	0
合計(n)		22		41	63
●出身地域					
東部		33%		67%	42
西部		35%		65%	20
隠岐		0%		0%	0
不明		100%		0%	1
合計(n)		22		41	63
●社会人（現在の居住地）					
県内		0%		0%	0
県外		44%		56%	16
合計(n)		7		9	16
●学生（卒業後の居住地）					
県内		0%		0%	0
県外		32%		68%	47
合計(n)		15		32	47

●いつ島根に戻るかは決めていない人が多いが、戻るとした場合は、女性より男性の方が、凡その時期を決めている傾向にある。

設問⑫ 島根県に戻る場合、想定される要件を教えてください(⑦で「いつかは戻りたいと考えている」または「どちらともいえない」と回答した方)【複数回答】



● 「自分の希望職種がある」が 44.4%で最も多かった。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

（島根に戻るための要件）

	1 自分の希望職種がある	2 自分のスキルに合う職種がある	3 家族の了解が得られた	4 その他	合計(n)
全体	44%	10%	29%	22%	63
合計(n)	28	6	18	14	63
●性別					
男性	54%	7%	21%	21%	28
女性	37%	11%	34%	23%	35
合計(n)	28	6	18	14	63
●職種					
学生	47%	9%	26%	23%	47
民間	38%	13%	38%	19%	16
公務員	0%	0%	0%	0%	0
合計(n)	28	6	18	14	63
●出身地域					
東部	45%	7%	29%	24%	42
西部	45%	15%	30%	15%	20
隠岐	0%	0%	0%	0%	0
不明	0%	0%	0%	100%	1
合計(n)	28	6	18	14	63
●社会人（現在の居住地）					
県内	0%	0%	0%	0%	0
県外	38%	13%	38%	19%	16
合計(n)	6	2	6	3	16
●学生（卒業後の居住地）					
県内	0%	0%	0%	0%	0
県外	47%	9%	26%	23%	47
合計(n)	22	4	12	11	47

●いつか島根に戻るための要件としては、男性は「島根に希望職種があること」が要件として多く、女性は「家族の了解があること」が多い。

●「自分の希望職種がある」と回答した人（希望職種）（n=28）

男性の回答		職種	出身地域
1	医療職	学生	東部
2	公務員	民間	東部
3	広告宣伝、ファッション	民間	東部
4	自営	学生	西部
5	教員	学生	西部
6	理学療法士	学生	東部
7	ペットショップ	民間	東部
8	保健師	学生	西部
9	公務員	学生	東部
10	技術職	学生	西部
11	IT企業	学生	東部
12	接客業	学生	東部
13	IT	学生	西部
14	IT系か映像系	学生	西部
15	イベント業	学生	東部
女性の回答		職種	出身地域
16	事務職	学生	東部
17	理学療法士	学生	東部
18	事務職	民間	東部
19	化学系技術職	学生	東部
20	事務職、営業職	民間	東部
21	医療福祉関係	民間	西部
22	社会福祉協議会職員	学生	西部
23	保健師	学生	西部
24	事務	学生	東部
25	保育	学生	東部
26	臨床検査技師	学生	東部
27	保育士	学生	東部
28	看護師または保健師	学生	東部

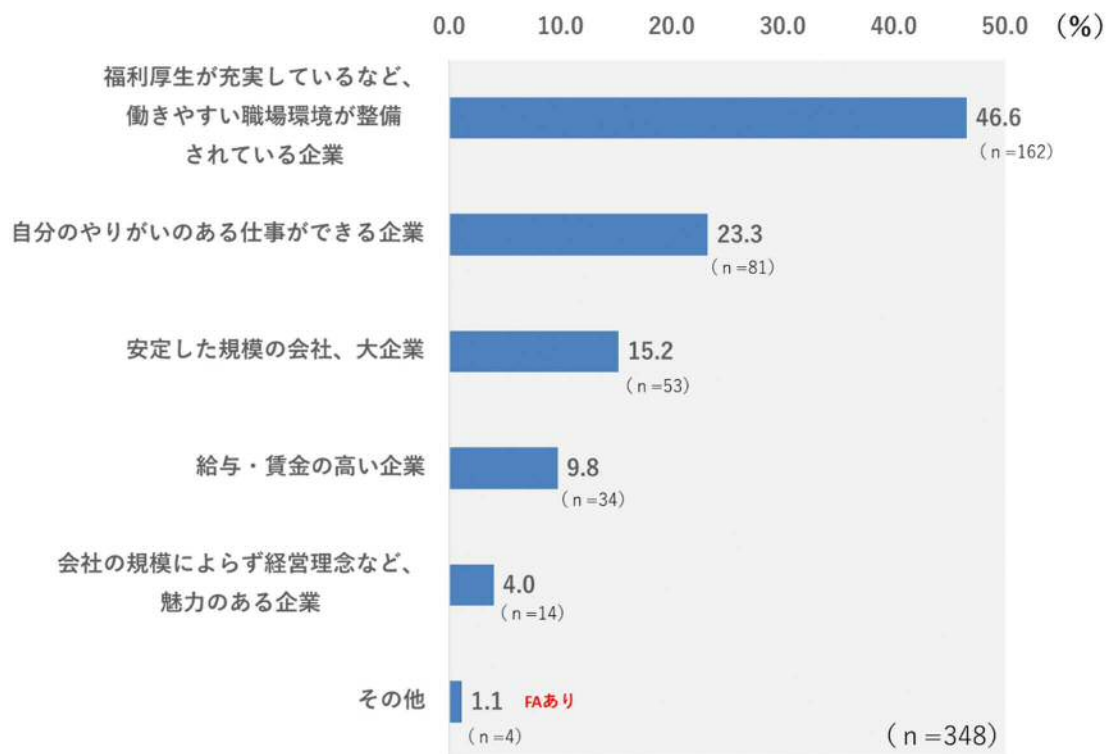
●「自分のスキルに合う職種がある」と回答した人（職種）（n=6）

男性の回答		職種	出身地域
1	柔道整復師	学生	西部
2	公務員	学生	東部
女性の回答		職種	出身地域
3	公務員等	民間	東部
4	医療福祉関係	民間	西部
5	保育士	学生	西部
6	環境検査	学生	東部

●「その他」と回答した人（職種）（n=14）

男性の回答		職種	出身地域
1	老後のゆとり	学生	東部
2	年収900万以上。島根の企業じゃなくてもいい。	民間	西部
3	未定	学生	東部
4	生活利便性の向上	学生	不明
5	条件が合う職場	学生	西部
6	米子の就職地への配属、又は転職で松江に戻る	学生	東部
女性の回答		職種	出身地域
7	転職	民間	西部
8	家族の都合	学生	東部
9	結婚や異動	学生	東部
10	新事業立ち上げに携わっているからそこにそのまま入るから	学生	東部
11	結婚	学生	東部
12	給料が満足できるか	学生	東部
13	自分のレベルに合った仕事ができる	民間	東部
14	自分のキャリアに見合う(大学ブランドを生かせる)職があること	学生	東部

設問⑬ 働く場について、就職先・居住先を選ぶ上で最も重要だと思うものをひとつ教えてください



● 「福利厚生が充実しているなど、働きやすい職場環境が整備されている企業」が46.6%と最も多く、次いで「自分のやりがいのある仕事ができる企業」が23.3%、「安定した規模の会社、大企業」が15.2%と続いた。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

（働く場について、就職先決定で重要なこと）

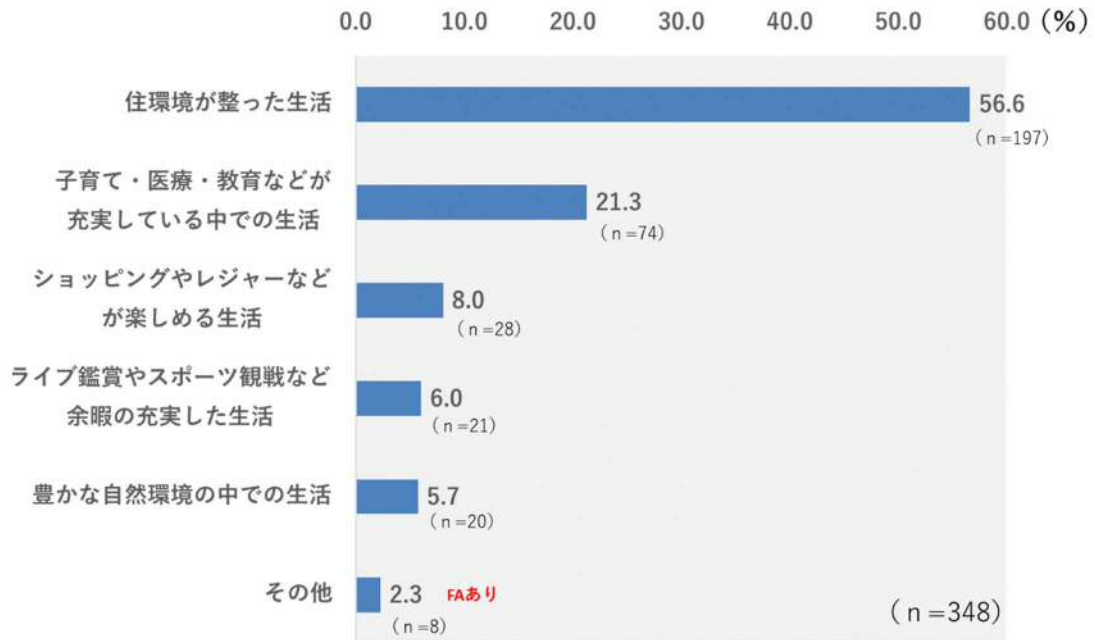
	1 安定した規模の会社、大企業	2 会社の規模によらず経営理念など、魅力のある企業	3 福利厚生が充実しているなど、働きやすい職場環境が整備されている企業	4 給与・賃金の高い企業	5 自分のやりがいのある仕事ができる企業	6 その他	合計(n)
全体	15%	4%	47%	10%	23%	1%	348
合計(n)	53	14	162	34	81	4	348
●性別							
男性	20%	3%	38%	14%	24%	1%	162
女性	11%	5%	54%	6%	23%	1%	186
合計(n)	53	14	162	34	81	4	348
●職種							
学生	15%	4%	40%	9%	29%	2%	157
民間	20%	6%	49%	9%	14%	1%	97
公務員	11%	1%	54%	12%	22%	0%	94
合計(n)	53	14	162	34	81	4	348
●出身地域							
東部	15%	5%	49%	8%	23%	1%	239
西部	17%	3%	39%	16%	23%	3%	77
隠岐	14%	0%	57%	7%	21%	0%	14
不明	11%	6%	44%	6%	33%	0%	18
合計(n)	53	14	162	34	81	4	348
●社会人（現在の居住地）							
県内	18%	5%	51%	10%	14%	1%	78
県外	26%	11%	42%	5%	16%	0%	19
合計(n)	19	6	48	9	14	1	97
●学生（卒業後の居住地）							
県内	18%	1%	43%	5%	30%	1%	76
県外	6%	4%	40%	19%	27%	4%	52
合計(n)	17	3	54	14	37	3	128

- 男性と比べ、女性の方が働きやすさを求める傾向にある。
- 公務員の方が、学生や民間と比べ、働きやすさを求める傾向にある。
- 県外の社会人は、企業の安定性が重要と考える傾向にある。

●「その他」と回答した人が、働く場について、重要だと思うもの (n=4)

男性の回答		職種	出身地域
1	同じ志を持っている人がいる企業	民間	西部
2	資格を生かせる仕事	学生	東部
女性の回答		職種	出身地域
3	自分の能力を最大限にいかし、自身が成長することが出来る企業	学生	東部
4	人柄が自分に合っていそうか	学生	西部

設問⑭ 生活環境について、就職先・居住先を選ぶ上で最も重要だと思うものをひとつ教えてください



●「住環境が整った生活」が56.6%と最も多く、次いで、「子育て・医療・教育などが充実している中での生活」が21.3%と続いた。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

（生活環境について、就職先決定で重要なこと）

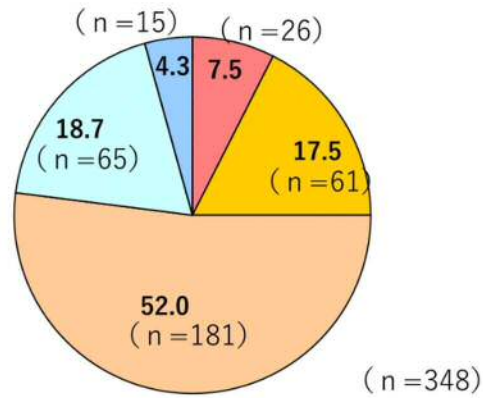
	1	2	3	4	5	6	
	住環境が整った生活	豊かな自然環境の中での生活	ショッピングやレジャーなどが楽しめる生活	ライブ鑑賞やスポーツ観戦など余暇の充実した生活	子育て・医療・教育などが充実している中での生活	その他	合計(n)
全体	57%	6%	8%	6%	21%	2%	348
合計(n)	197	20	28	21	74	8	348
●性別							
男性	52%	10%	9%	7%	19%	2%	162
女性	60%	2%	7%	5%	24%	2%	186
合計(n)	197	20	28	21	74	8	348
●職種							
学生	61%	4%	7%	3%	21%	3%	157
民間	55%	7%	7%	6%	25%	0%	97
公務員	51%	6%	11%	11%	18%	3%	94
合計(n)	197	20	28	21	74	8	348
●出身地域							
東部	58%	8%	7%	5%	20%	3%	239
西部	51%	3%	10%	6%	27%	3%	77
隠岐	50%	0%	7%	7%	36%	0%	14
不明	72%	0%	17%	11%	0%	0%	18
合計(n)	197	20	28	21	74	8	348
●社会人（現在の居住地）							
県内	59%	8%	8%	8%	18%	0%	78
県外	37%	5%	5%	0%	53%	0%	19
合計(n)	53	7	7	6	24	0	97
●学生（卒業後の居住地）							
県内	61%	8%	4%	1%	24%	3%	76
県外	56%	2%	6%	6%	25%	6%	52
合計(n)	75	7	6	4	31	5	128

●県内の社会人は、住環境が整った生活を求めている。一方、県外の社会人は、子育て環境の充実を求めている。

●「その他」と回答した人が、生活環境について、重要だと思うもの (n=8)

男性の回答		職種	出身地域
1	自由	学生	東部
2	ほかの県との交通機関	学生	西部
3	研修で1年間通うため	学生	東部
4	職場への通勤距離	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
5	実家	学生	東部
6	スキルアップできる環境のある職場	学生	東部
7	仕事以外の生活（趣味や家族の時間）をちゃんと取れる	公務員	東部
8	これからの人生をそこで過ごせるか。（自分の気持ち含め）	公務員	西部

設問⑮ 就職先を選ぶ際の、働く場と生活環境のどちらに比重を置いていますか



- 1. だんぜん働く場を重視する
- 2. どちらかといえば、働く場を重視する
- 3. 働く場と生活環境を同等に考える
- 4. どちらかといえば、生活環境を重視する
- 5. だんぜん生活環境を重視する

● 「働く場と生活環境を同等に考える」が52.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば、生活環境を重視する」と「どちらかといえば、働く場を重視する」は18%前後でほぼ同等だった。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

(働く場と生活環境の比重)

	1	2	3	4	5	合計(n)
	だんぜん働く場を重視する	どちらかといえば、働く場を重視する	働く場と生活環境を同等に考える	視する どちらかといえば、生活環境を重視する	だんぜん生活環境を重視する	
全体	7%	18%	52%	19%	4%	348
合計(n)	26	61	181	65	15	348
●性別						
男性	9%	17%	49%	21%	5%	162
女性	6%	18%	55%	17%	4%	186
合計(n)	26	61	181	65	15	348
●職種						
学生	10%	20%	54%	15%	2%	157
民間	6%	15%	52%	23%	4%	97
公務員	5%	16%	49%	21%	9%	94
合計(n)	26	61	181	65	15	348
●出身地域						
東部	7%	21%	51%	17%	4%	239
西部	10%	12%	52%	22%	4%	77
隠岐	7%	14%	36%	36%	7%	14
不明	6%	0%	72%	17%	6%	18
合計(n)	26	61	181	65	15	348
●社会人（現在の居住地）						
県内	8%	15%	53%	21%	4%	78
県外	0%	16%	47%	32%	5%	19
合計(n)	6	15	50	22	4	97
●学生（卒業後の居住地）						
県内	8%	21%	49%	20%	3%	76
県外	13%	19%	54%	12%	2%	52
合計(n)	13	26	65	21	3	128

- 働く場と生活環境を同等に考えるのは、東部や西部と比べ、隠岐は少なく、どちらかといえば、隠岐の人は生活環境をより重視している。
- 県外の社会人は、どちらかといえば生活環境を重視する傾向がある。

設問⑩ 就職先を判断した際/判断する際に、どのような条件があれば島根県内での就職を考えていましたか/考えますか

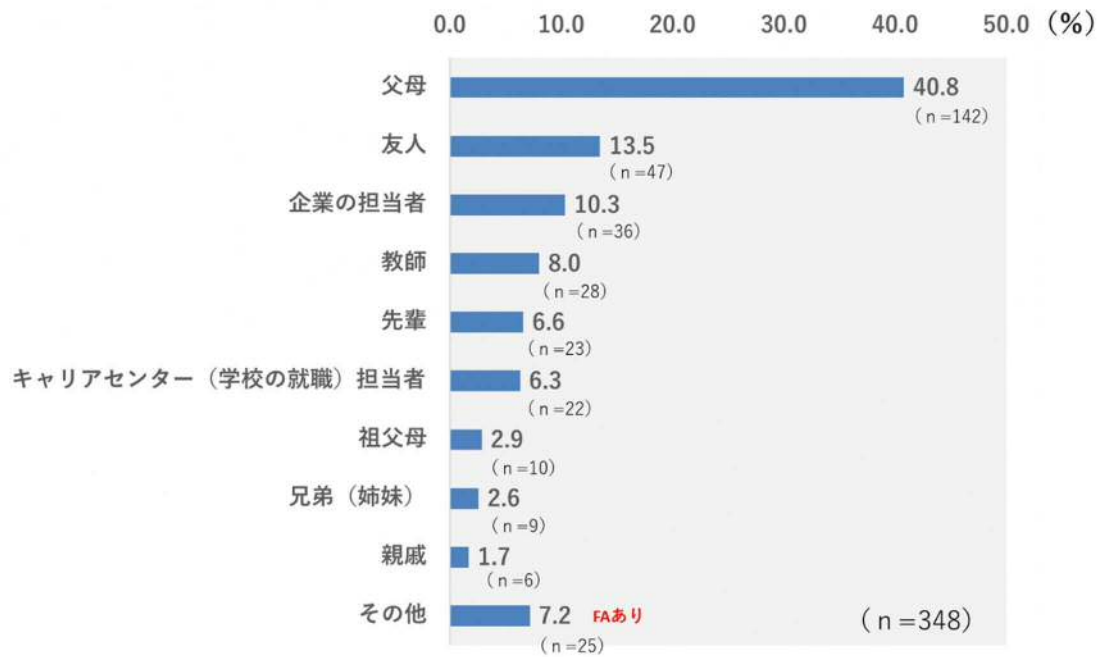
●自由記載 (n=33)

男性の回答		職種	出身地域
1	都会と同じ規模の企業がある、給与水準が都会と同程度、キャリアとして価値のある仕事	学生	東部
2	企業の母数がそもそも福岡とは段違いで、条件を絞っていくと島根では選択肢がなかった。	民間	東部
3	都会と変わらない給与水準があれば考える、起業向け支援が充実していたら考える。	民間	西部
4	全く考えておらず、自分がしている仕事がネット環境が整えばどこでもよく、偶然にもがあった島根県にいただけ	民間	不明
5	島根県は考えていない	民間	隠岐
6	都会と同じ商業施設があれば考える	民間	不明
7	給料水準が低いと思っていた。	民間	西部
8	たくさんの商業施設があれば考える	学生	西部
9	都会と変わらない給与水準を望む。働ける会社が多い。	民間	東部
10	能力を活かして、可能性が感じられる職場であること	学生	西部
11	やはり一番最初に思うのは、収入面。例え生活面で係るものが違うと言われてもピンと来ない。	学生	東部
12	休日に遊べる場所がたくさんあれば趣味に必要なものが買える	公務員	西部
13	都会と変わらない給与水準があれば考える。(地価等は都会より低いかもしれないが、県民のほとんどが所有している車や、衣類、その他嗜好品等は都会と田舎では金額水準が変わらないため)	公務員	東部
14	東京や大阪といった主要都市への交通の便が今より良ければ考える(格安航空が就航している、特急やくも乗車時間の短縮、山陰新幹線の整備)、車に頼らない生活ができる(バス網の充実)。飲食店チェーンの充実	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
15	地元は大好きで島根県が嫌なのではなくそれ以上に都会で自分を試してみたい思いが強かった。条件がどうということではありません。	学生	隠岐
16	老健以外で理学療法士として働く場所が増えたら考える。	学生	東部
17	たくさんの商業施設があれば	民間	東部
18	多くお店があれば	学生	東部
19	自分の行きたい会社があれば考える	学生	東部
20	入社を考える会社の選択肢が増え、かつ自分の望む仕事、福利厚生、働く人の人柄などが整っていれば。	学生	東部
21	自身が挑戦したい職種が専門的で、その会社が島根県にはなかったため	学生	東部
22	技術や福利厚生の充実	学生	西部

23	希望している就職先が島根県には少ない	学生	東部
24	教育環境	学生	西部
25	関心やスキルを活かせる仕事があれば考えたい	学生	東部
26	たくさんの商業施設があれば考える	学生	東部
27	病院数が少ない上に、社会人になった後大学院に進む選択肢が島根県だと消えてしまう。交通のアクセスが悪く学会等にも行きづらい。	学生	西部
28	東京と同じ収入	学生	東部
29	看護職のため、帰ろうと思えばいつでも帰れる。しばらくは、研修制度の充実した環境に身を置き、自己研鑽するべきと考えたから。	学生	東部
30	企業の数をもっと多かったら	学生	西部
31	都会と同じ給与水準、自分が成長できる環境があれば考える。	民間	東部
32	給与水準が東京都と同じくらいであれば就職も考えた/大学院に行きたいと考えた時、島根大学しか選択肢がない。働きながらのキャリアアップが出来ないのは厳しい/コロナ感染者を差別する閉鎖的な風土が気に入らない	学生	東部
33	新幹線や電車などの交通が整っている。	公務員	西部

●男性は仕事、特に給与面に重点を置き、女性は給与にはあまり拘っていない傾向。

設問① 就職先決定の際に、最も影響を受けた方を教えてください



●「父母」が40.8%と最も多く、次いで、「友人」が13.5%、「企業の担当者」が10.3%と続いた。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

（就職先決定で最も影響を受けた人）

	1 父母	2 兄弟 (姉妹)	3 祖父母	4 親戚	5 先輩	6 友人	7 教師	8 キャリアセンター (学校の就職)担当者	9 企業の担当者	10 その他	合計(n)
全体	41%	3%	3%	2%	7%	14%	8%	6%	10%	7%	348
合計(n)	142	9	10	6	23	47	28	22	36	25	348
●性別											
男性	39%	2%	4%	3%	8%	11%	7%	6%	14%	7%	162
女性	42%	3%	2%	1%	5%	16%	9%	7%	8%	7%	186
合計(n)	142	9	10	6	23	47	28	22	36	25	348
●職種											
学生	36%	4%	1%	1%	7%	18%	10%	8%	11%	6%	157
民間	37%	2%	5%	2%	8%	10%	8%	4%	14%	8%	97
公務員	53%	1%	4%	2%	4%	10%	5%	6%	5%	9%	94
合計(n)	142	9	10	6	23	47	28	22	36	25	348
●出身地域											
東部	40%	3%	3%	2%	6%	13%	8%	7%	11%	8%	239
西部	40%	1%	4%	1%	8%	17%	9%	4%	9%	6%	77
隠岐	57%	0%	0%	0%	7%	7%	14%	0%	7%	7%	14
不明	39%	6%	0%	6%	11%	17%	0%	11%	6%	6%	18
合計(n)	142	9	10	6	23	47	28	22	36	25	348
●社会人（現在の居住地）											
県内	38%	3%	6%	1%	8%	10%	9%	1%	15%	8%	78
県外	32%	0%	0%	5%	11%	11%	5%	16%	11%	11%	19
合計(n)	36	2	5	2	8	10	8	4	14	8	97
●学生（卒業後の居住地）											
県内	53%	3%	0%	1%	5%	11%	4%	7%	9%	8%	76
県外	21%	4%	0%	2%	4%	27%	13%	8%	15%	6%	52
合計(n)	51	4	0	2	6	22	10	9	15	9	128

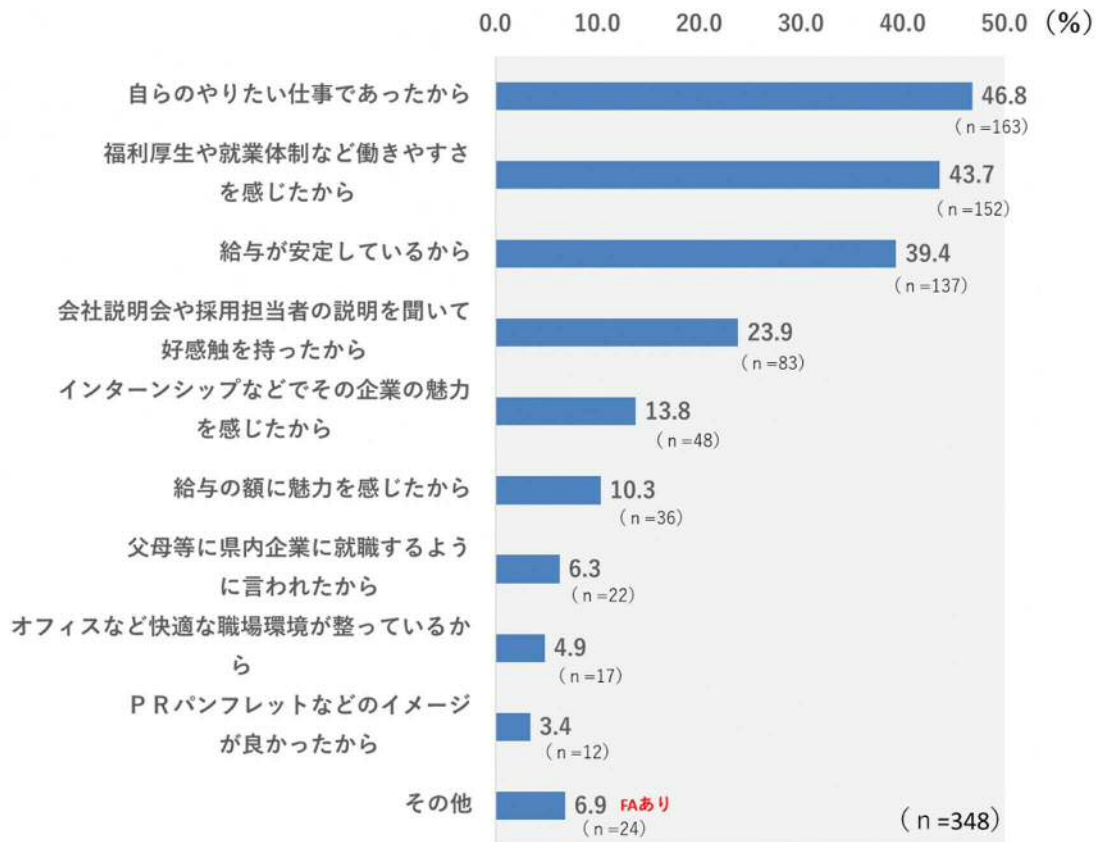
- 公務員は、親から影響を受けて就職先を決定した人が多い。
 - 出身地域が隠岐の人は、親から影響を受けて就職先を決定した人が多い。
- 卒業後の居住地が県内の学生は、親から影響を受けて就職先を決定した人が多い。一方、県外に居住する学生は、友人の影響がある。

●「その他」と回答した人が影響を受けた人 (n=25)

男性の回答		職種	出身地域
1	自分自身	民間	東部
2	彼女	民間	東部
3	特になし	民間	東部
4	ネット	民間	東部
5	特になし	学生	不明
6	インターン先の人らや、社会人	学生	東部
7	特になし	公務員	西部
8	インターンシップ	公務員	東部
9	自分自身	公務員	東部
10	特になし	公務員	東部
11	いない	公務員	西部
12	自分で決めた	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
13	特にいません	学生	東部
14	好きなアイドル	学生	東部
15	なし	民間	東部
16	恋人	民間	東部
17	特にいない	学生	東部
18	アルバイト先の責任者の方	学生	東部
19	教授	民間	西部
20	旦那	民間	西部
21	企業の社長、社員の方	学生	東部
22	特になし	学生	東部
23	学校以外の就活支援の方	学生	西部
24	説明会に来られていた県職員の方々	公務員	東部
25	他者の影響は受けていない	公務員	隠岐

●誰の影響も受けていない人が一定数いる。

設問⑩ 就職先決定の判断ポイントを教えてください【複数回答】



●「自らのやりたい仕事であったから」が46.8%と最も多く、次いで「福利厚生や就業体制など働きやすさを感じたから」が43.7%、「給与が安定しているから」が39.4%と続いた。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

(判断ポイント)

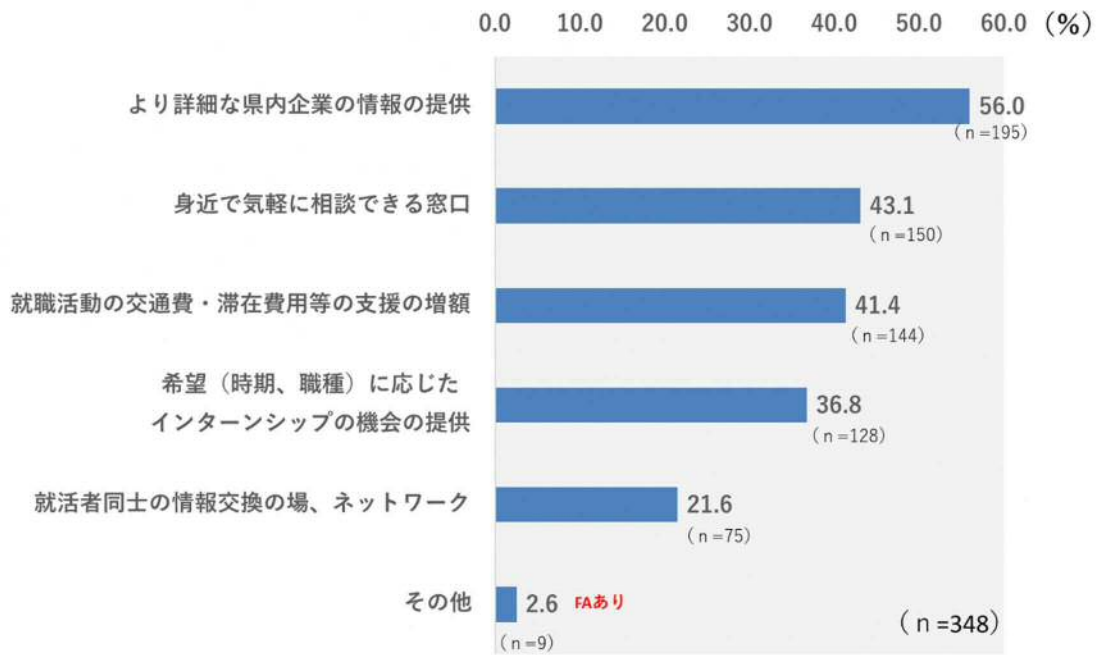
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計(n)
	給与の額に魅力を感じたから	給与が安定しているから	自らのやりたい仕事であったから	福利厚生や就業体制など働きやすさを感じたから	インターンシップなどでその企業の魅力を感じたから	会社説明会や採用担当者の説明を聞いて好感触を持ったから	オフィスなど快適な職場環境が整っているから	PRパンフレットなどのイメージが良かったから	父母等に県内企業に就職するよう言われたから	その他	
全体	10%	39%	47%	44%	14%	24%	5%	3%	6%	7%	348
合計(n)	36	137	163	152	48	83	17	12	22	24	348
●性別											
男性	13%	40%	43%	41%	14%	26%	6%	3%	6%	6%	162
女性	8%	39%	51%	46%	13%	22%	4%	4%	6%	8%	186
合計(n)	36	137	163	152	48	83	17	12	22	24	348
●職種											
学生	11%	31%	60%	41%	17%	31%	6%	6%	3%	7%	157
民間	19%	35%	40%	37%	15%	28%	4%	1%	5%	5%	97
公務員	0%	57%	32%	54%	6%	9%	4%	1%	14%	9%	94
合計(n)	36	137	163	152	48	83	17	12	22	24	348
●出身地域											
東部	9%	44%	48%	46%	15%	27%	4%	3%	6%	5%	239
西部	13%	23%	44%	32%	10%	18%	5%	1%	8%	14%	77
隠岐	0%	50%	29%	43%	0%	14%	7%	0%	14%	7%	14
不明	22%	39%	61%	56%	17%	17%	17%	17%	0%	6%	18
合計(n)	36	137	163	152	48	83	17	12	22	24	348
●社会人（現在の居住地）											
県内	18%	35%	36%	35%	15%	27%	4%	1%	5%	6%	78
県外	21%	37%	58%	47%	16%	32%	5%	0%	5%	0%	19
合計(n)	18	34	39	36	15	27	4	1	5	5	97
●学生（卒業後の居住地）											
県内	4%	37%	58%	45%	17%	22%	4%	3%	5%	8%	76
県外	13%	25%	58%	33%	17%	40%	6%	8%	0%	6%	52
合計(n)	10	41	74	51	22	38	6	6	4	9	128

- 公務員の人は安定した給与や働きやすさがポイントとなると回答した人が多く、学生は、自らのやりたい仕事判断ポイントとして高い。
- 出身地域が隠岐の人は安定した給与をポイントとし、出身地域が東部の人は自らのやりたい仕事であることをポイントとしている。
- 県外社会人は、自らのやりたい仕事や働きやすさをポイントとしている。
- 卒業後に県内に居住する学生は安定した給与、県外に居住する学生は企業担当者に好感触を持ったことをポイントとしている。

●「その他」と回答した人 (n=24)

男性の回答		職種	出身地域
1	実習でお世話になった為	民間	西部
2	数年後や、その後も近いうちに潰れることのないところだと思うか	民間	西部
3	将来性	民間	東部
4	能力や経験を活かそうだから	学生	西部
5	その会社の商品が好きだったから	学生	不明
6	採用試験のタイミング	公務員	西部
7	がんばれば入れそうだったから。	公務員	東部
8	地元	公務員	西部
9	多様な経験ができると思ったため。	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
10	担当者本人に魅力を感じ、「この人の下で働きたい」と感じたから	民間	東部
11	自分の考え方と似た理念を持っている会社だったため	学生	東部
12	資格が取れるよう勉強できるツールを発信していたから。	学生	東部
13	地元で働きたいから	学生	西部
14	将来性があるか	学生	東部
15	恩返しがしたかったから	民間	西部
16	実習先	学生	東部
17	奨学金	学生	東部
18	母校の附属病院な為	学生	東部
19	人柄の良さを感じた、内内定を出した評価理由を説明してくれた	学生	西部
20	新卒を募集している企業がほとんどなかったから	学生	西部
21	島根県内で働くことができるから	公務員	東部
22	専門職のため、募集があった自治体に応募しました	公務員	西部
23	公務員希望だったため。	公務員	西部
24	島根に帰るのであれば公務員しかないと思ったから	公務員	隠岐

設問⑱ 就職活動を行う際の、欲しい支援を教えてください【複数回答】



● 「より詳細な県内企業の情報の提供」が56.0%と最も多く、次いで「身近で気軽に相談できる窓口」が43.1%、「就職活動の交通費・滞在費用等の支援の増額」が41.4%と続いた。

.....以下、各属性（性別／職種／出身地域）の結果.....

下表は、最上段に本設問の回答の選択肢を記載している。

青色のバーの長さは、各行の合計値に対する各セルの値の比率を示す。

(欲しい支援)

	1	2	3	4	5	6	
	より詳細な県内企業の情報の提供	就職活動の交通費・滞在費用等の支援の増額	希望（時期、職種）に応じたインターンシップの機会の提供	身近で気軽に相談できる窓口	就活者同士の情報交換の場、ネットワーク	その他	合計(n)
全体	56%	41%	37%	43%	22%	3%	348
合計(n)	195	144	128	150	75	9	348
●性別							
男性	61%	46%	32%	41%	25%	2%	162
女性	52%	38%	41%	45%	19%	3%	186
合計(n)	195	144	128	150	75	9	348
●職種							
学生	51%	45%	38%	37%	25%	4%	157
民間	64%	41%	32%	45%	13%	1%	97
公務員	56%	36%	40%	51%	24%	2%	94
合計(n)	195	144	128	150	75	9	348
●出身地域							
東部	56%	38%	41%	48%	20%	3%	239
西部	56%	47%	25%	34%	27%	3%	77
隠岐	50%	50%	29%	29%	21%	0%	14
不明	67%	61%	33%	33%	22%	0%	18
合計(n)	195	144	128	150	75	9	348
●社会人（現在の居住地）							
県内	63%	42%	28%	47%	10%	1%	78
県外	68%	37%	47%	37%	26%	0%	19
合計(n)	62	40	31	44	13	1	97
●学生（卒業後の居住地）							
県内	53%	41%	37%	47%	30%	4%	76
県外	44%	50%	35%	27%	15%	6%	52
合計(n)	63	57	46	50	31	6	128

- より詳細な企業情報が最も多いが、属性毎の大きな差はほとんど見られない。
- インターンシップ機会は、男性と比べ、女性の方が希望している。
- 出身地域が隠岐の人は、就職活動の交通費等の金銭的な支援を希望している傾向にある。
- 県外の社会人は、県内の社会人より、インターンシップの機会を求めている傾向にある。
- 卒業後に県内で就職する学生は、気軽に相談できる窓口を求めている傾向にある。

● 「その他」と回答した人の欲しい支援 (n=9)

男性の回答		職種	出身地域
1	都心から地元に戻った社会人とのコミュニティ	学生	東部
2	数字だけでなく残業や職場の雰囲気など身をもって感じられる	民間	西部
3	特になし	公務員	東部
4	就職活動での動き方や身だしなみ・マナー等について学べる機会	公務員	東部
女性の回答		職種	出身地域
5	今でも十分さまざまな支援をされているので満足しています。	学生	東部
6	先輩就活生達の過去の就職試験の報告書	学生	東部
7	より多くの就活情報が1つのサイトにまとまっているとありがたい	学生	東部
8	ない	学生	西部
9	収入と昇級	学生	東部

㊦自由記載

(n=46)

男性の回答		職種	出身地域
1	ボーナスの額が明らかにしてほしい	民間	東部
2	学校には出雲方面の企業見学バスツアーの情報があつたが、松江方面がなかったのでそちらがあればありがたかった。	学生	不明
3	同世代(若年層)でも島根県内で働きたいと考える人は多いと感じます。しかし、どうしても県外の都市部などに比べると若年層の憧れるような職種が少なく、仕方なく県外へ働きに出て行ってしまうのが現状だと考えます。なので若年層が憧れているような職種を県内で増やす事(県外企業の誘致やテレワークを活用した働き方の促進など)が県内若年層の人口流出阻止、延いては島根県の活力向上に繋がると思っています。	民間	東部
4	就職活動の資金援助があれば島根も考えたかもしれないです。大学で島根県外に出た身としては、就職活動で島根に行く交通費がありませんでした。むしろ東京や大阪の企業は交通費を全額負担してくれる企業もあり、東京・大阪には数回就職活動で行きました。	民間	東部
5	大田市で起業したいので、大田市になんの課題があるか知りたい。	民間	西部
6	特定の企業に所属せず、フリーで活動するWebライターやブロガーに対する、市町村職員の偏見をなくしてほしい。	民間	不明
7	インターンシップにより、実際に働く中での空気感が就職先の決め手となったと感じた就活であった。松江や出雲では、インターンシップを積極的に行なっている企業が多い状況にある。一方で、中山間地域にある会社ではインターンシップを受けたくても、受け入れが難しいからと断られる企業もあった。この経験から、中山間地域の企業でのインターンシップ受け入れをしやすくなるような環境整備が行われることを要望する。	学生	東部
8	県外に住んでいる大学生にもっと島根県内の企業情報を発信してほしい。私自身が埼玉に住んでいました。関東の就活支援してくださるところでは島根県の情報が全くなかったのもそういうところにも情報があつた方がいいと思う。	学生	東部
9	就活時代、自分自身も感じたし友人も言っていたのは「島根に帰りたいけど働く場所や大学で学んだことを活かせる場所がない」こと。例えば、大学でプログラミングを学んだとして、それを活かせる企業がどこかがわからないし、どう探していいかもわからない。田舎であるならそこを逆にメリットとして考えて、プログラミングなどをのんびりとした土地でできるような企業があればいいなと思ってた。企業誘致と宣伝方法に期待します。	民間	西部
10	保育士の給料面の改善をしていただけると、より今後も仕事を頑張ろうと思える。保育士の仕事内容に対して、もう少し給与面でのサポートがほしい。	民間	西部
11	特にないです	民間	西部
12	共働き世帯に対する仕事の両立支援、子育て支援の増強、交通網の整備・拡充	民間	東部
13	コロナで、以前より地方で働く人(ニーズ)が増えていると思う。一方、島根は、上場企業が少ない等とキャリアアップを目指す若者にとっては不向きな場所だと思う。行政には、企業誘致を積極的に推進してもらいたい。また、就活時の困りごととして資金面の捻出がある。県外大学にいる人は、島根で就活をしたくても講義・バイトの両立から定期的に行き来が必要になる。交通費・宿泊費支援があれば足かせが外れ、気軽に就活できる。	民間	西部

男性の回答		職種	出身地域
14	インターンに参加させていただける機会があって今の自分がいるので、大変ありがたかったです。今後は運営側の支援にも回れるよう松江市職員として働きたいです。ありがとうございました。	学生	東部
15	教育施設の不足の解消をお願いしたい。(主に大学)総務省のデータ及び県の資料を見る限り島根県の人口、特に若者世代は減り続けており地域振興が衰えているように感じられる。事実人口がピークに達している1955年から近代においては県内人口が約半分まで減っている。今後の島根県の発展のためにも発展に必須である若者世代の県内人口の減少を防ぐためにも教育施設の増築を島根県及び県内企業に検討して頂きたい。	学生	東部
16	居住先の提供及び補助	学生	西部
17	今年度はどの県でも早めにオンライン化が進められていたが島根ではなかなかオンラインでの企業説明などが行われなかった	学生	東部
18	都心部は出ていると、学生自身で情報を得る時に、地方への情報が偏ったり、収集し切れていないように感じる。その状況で就活をした時に、どうしても都心部へのメリットのように感じます。	学生	東部
19	自分は就職活動の時、何をすればいいのか全く分からず、ただ時間だけが過ぎていく状態だった。情報を集めても、もう募集が終わっていたり、そもそも受験の資格が無かったり、とにかく情報が足りていなかった。結果として島根に残ったが、今では、大学が地元だったこともあり、若いうちぐらいは都会に出ても良かったなあと思う。そんなことを考える余地も無いまま就職活動は終わったので、戻れるなら戻りたいとすら思う。	公務員	東部
20	大学在学中には、県内にどのような企業があるのか全く分からなかった。県内で就職先を探そうとすると就活生はかなりアクティブに活動する必要がある。人材確保のための企業情報の発信を支援する事業があればよいと感じる。etc 求人サイトへの掲載費や転職エージェントとの連携に係る費用の補助、人員確保のための企業情報の発信に関するセミナーの開催など	公務員	東部
21	半年ほど広島県に住んでいましたが、やはり自分は島根が好きなんだと思うようになり、島根県に転職しました。住み慣れた市町で働くことができ、大変嬉しく、幸せに感じています。強いて言うならば、Uターン者に対する新生活応援のための補助(金銭面、環境面)があれば、、、と思いました。	公務員	西部
22	就活をする際、東京の企業等では交通費を一部負担してもらえるところもあるようだが、島根県で就活をする際は交通費は全額自己負担せねばならず、就活のたびに帰省するのが大変であった。また、採用面接日が一日しか設けてもらえず(2週間前くらいに日程の連絡が来た。)、交通費の支給がなかったため、面接自体を断わざるをえなかった。県外への大学生へもう少し配慮してほしいと感じた。	公務員	東部
23	ある程度以上の大学生にとって、特に理工系の就職先が乏しく、優秀な人材が他県に流れてしまっている。定住のためには優良な就職先の有無の影響が大きい。	公務員	東部
24	県外に出た就活生同士が交流できる場があると情報面でも心理的な面でも心強いと感じた。	公務員	東部
25	来年度から、勤務区分が自由に選べるようになったり、在宅勤務が試行されたりする点は、積極的にアピールしていったらよいと思う。今の世代は働き方を重視すると思うので、多様な働き方が認められる企業は魅力的に映るはず。(副業OKなど)	公務員	東部

女性の回答	職種	出身地域
26 ジョブカフェの窓口が松江や浜田だけですが、出雲など市町村ごとにあるともっと行きやすかったかなと思います。さまざまなイベントに参加させていただき、自分のやりたいことをはっきりさせることができたことに感謝しております。ありがとうございました。	学生	東部
27 受からせる気がないなら圧迫面接をしないでほしい	学生	東部
28 企業説明会や面接の日程はできるだけ期間を分けて複数回設定して欲しかったです。学校の行事や海外研修、実習などがあり、興味のある企業の面接が受けられないということがあると思います。	学生以外	東部
29 既にあつたら大変申し訳無いのですが、マイナビやリクナビのようにスマートフォンなどで検索や応募のできるアプリが島根県独自にあると便利だと思いました。	学生	東部
30 この度はお世話になりました。ありがとうございました。	学生	西部
31 現所属の学校は卒業するがもう1つ進学するため、進学・編入での住居が県外というような項目もあると記入しやすい	学生	東部
32 就業時間の設定や居住地の選択など、多様な働き方が進んでほしい。	学生	東部
33 企業などを紹介するパンフレット等があると目星をつけて探しやすいと思います。	学生	東部
34 島根県は交通の便があまり良くないので、就職活動でインターンシップや面接等するときに交通費の支援を手厚くしたほうが、就活生として、島根の企業にインターンシップで行ってみようかという気になると思う。	学生	西部
35 私の就職活動では交通費の支援制度を何度か使わせてもらいました。アルバイトができない中だったのでとても助かりました。ありがとうございました。	学生	東部
36 私はインターンシップに参加したことがすごく印象に残っています。短大生で1年の夏休み期間に実際に気になる職場に行き、経験を積むことができました。実際に行くことで直接その職場の雰囲気を感じることができました。行くと行かないではかなり差が出ると思います。私は行ってよかったと実感しています。これから就職する後輩たちもチャンスは無駄にせず、どんどん挑戦して欲しいと思います。	学生	東部
37 新卒で働くなら、優秀な人材が多くいる企業でスキルを身につけたいと思い、県内就職は考えなかった。ただ、地元のことは好きなので、たくさん情報発信してほしい。	学生以外	東部
38 本当は島根に帰りたかった。でも、島根県の給与水準は、今の内定先と比べて10万円も低い。キャリアアップも見込めない。将来子供を産むとして教育水準も低すぎる。でも、島根の空気や自然は好きだ。歳をとってから住むにはちょうど良いと思う。だから、十分なキャリアを積み終わり給与水準が低くても十分な貯金があるから関係ない。そんな年齢になった頃には島根に帰りたい。	学生	東部
39 就職活動に対するサポートなどはかなりして頂けると感じましたが、肝心の就職先がとて少ない事に気がつきました。地元に戻ってきて欲しいという自治体の気持ちも分かっている上で今回地元への就職を決めましたが、新卒を募集している会社はほ	学生	西部

女性の回答	職種	出身地域
とどなく“行きたい会社”というよりも“こしか試験を行っていないからここを受けるし かない”という状態でした。もっと新卒での採用枠を増やすべきだと思いました。		
40 就職活動をするにあたり、同職種に女性が少ないこともあり、情報収集をする際に ほしい情報があまり得られなかった。同じ大学のOBの方の訪問等は非常にた まになった。	公務員	東部
41 県外就職を目指す、面接のたびに県外に向かわなければならず落ちる面接にさえ 出費が大きくて嫌だったなあと思ひます。	公務員	東部
42 島根を出た友人に、戻って来ないかと聞くと、皆「都会の交通の良さに慣れたら帰 れない」と言ひます。誰もが車に乗れるわけではないですし、ライブなどへ行く交通費 だけで数万円かかることも少なくないです。子供を産めば島根の良さがわかると言 ひますが、友人も私もそうですが、結婚も出産もしないと言ひ若者が多い現状を踏ま え、そういった人たちが帰ってきたい、住みたいと思ひるまちづくりが必要なのでは ないかと考へます。	公務員	西部
43 大学から遠方の自治体だと、どうしても情報が入りにくいと感じる。島根県から遠方 の大学でもキャリアセンター等へ情報が入るようになれば便利ではないかと思ひ。	公務員	東部
44 給与が低すぎる。島根県は、都市と異なり生活する上で自動車が必要不可欠 であり、自家用車の購入費・メンテナンス代など多額の費用がかかる。それに加え て、松江市は賃貸アパート等の賃料が都会並みである。そういった特徴があるにもか かわらず、全く新卒給与に考へがされていないと感じる。ただでさえ若年層の都市へ の流出が多いのに、給与も低いとなれば、若者のU・Iターンは望めない。	公務員	東部
45 県外でも参加できる就職イベント等の機会が、様々な地域であるとよと思ひま す。	公務員	東部
46 島根で就職し、民間の給与の額とあまりに違い愕然としている。とてもじゃないが島 根で就職することを勧められる気がしない。島根は物価が安いというが、都会と違い 車は必須であるし、関東でも生活したことがあるが特段物価に差を感じたことはな い。そんな状況であまりに給与が安く、やりがいでだけではやっていけないため、後輩 などにはお勧めできない。	公務員	隠岐

3. 分析

3-1 分析方針

内就職に対する若年層の意識や意思決定の重要因子、阻害要因等を分析するため、以下の方針に基づき設問間のクロス集計を行った。

	設問	クロスする設問	狙い
分析 A	設問① 【現在の居住地（県内・県外）】	‘⑬【働く場の重要要素】 ‘⑭【生活環境の重要要素】 ‘⑮【働く場・生活環境の比重】 ‘⑰【影響を受けた人】 ‘⑱【判断ポイント】	県内在住と県外在住で、就職決定の価値観等の差異を確認する。
分析 B	設問③ 【就職意向の有無】	‘④【意思決定のタイミング】 ‘⑤【県の情報を参考としたか】 ‘⑥【県内就職を決めた理由】 ‘⑬【働く場の重要要素】 ‘⑭【生活環境の重要要素】 ‘⑮【働く場・生活環境の比重】 ‘⑰【影響を受けた人】	県内就職意向別に、就職決定の価値観等の差異を確認する。
分析 C	設問⑩ 【島根に戻ることを考えが、どちらともいえないの方】	‘⑬【働く場の重要要素】 ‘⑭【生活環境の重要要素】 ‘⑮【働く場・生活環境の比重】 ‘⑰【影響を受けた人】 ‘⑲【求める支援策】	県外在住の島根移住関心層へのきっかけを確認する。
分析 D	設問⑮ 【働く場・生活環境の比重】	‘⑬【働く場の重要要素】 ‘⑭【生活環境の重要要素】	働く場・生活の場の比重別のそれぞれに求めるニーズを確認する。
分析 E	【居住別・県外就職意向の学生】 【居住別・県内就職意向の学生】 【県外就職した社会人】	‘④【意思決定のタイミング】 ‘⑤【県の情報を参考としたか】 ‘⑥【県内就職を決めた理由】	就職意向の価値観の差異を確認する。

		⑬【働く場の重要要素】	
		⑭【生活環境の重要要素】	

3-2 分析結果

●分析 A

県内在住と県外在住で、就職決定の価値観等の差異を確認するために、現在の居住地別に比較した。

設問①【現在の居住地】 × 設問⑬【働く場の重要要素】

	1 安定した規模の会社、大企業	2 会社の規模によらず経営理念など、魅力のある企業	3 働きやすい職場環境が整備されている企業	4 給与・賃金の高い企業	5 自分のやりがいのある仕事ができる企業	6 その他	合計
全体	15%	4%	47%	10%	23%	1%	348
島根県	15%	3%	48%	9%	24%	1%	236
それ以外	16%	6%	43%	12%	21%	2%	112
合計(n)	53	14	162	34	81	4	348

●いずれも「福利厚生の充実などの働きやすい職場環境」「自分のやりがいのある仕事」の順となり、属性間の傾向差は見られない。

設問①【現在の居住地】 × 設問⑭【生活環境の重要要素】

	1	2	3	4	5	6	合計
	住環境が整った生活	豊かな自然環境の中での生活	ショッピングやレジャーなどが楽しめる生活	ライブ鑑賞やスポーツ観戦など余暇の充実した生活	子育て・医療・教育などが充実している中での生活	その他	
全体	57%	6%	8%	6%	21%	2%	348
島根県	57%	7%	8%	8%	19%	2%	236
それ以外	56%	3%	9%	3%	27%	3%	112
合計(n)	197	20	28	21	74	8	348

● 「豊かな自然環境」「ライブ鑑賞・スポーツ観戦などの余暇環境」は、島根県内在住者が県外在住者に比して高く、「子育て・医療・教育環境」は、県外在住者が県内在住者に比して高い傾向にある。

設問①【現在の居住地】 × 設問⑮【働く場・生活環境の比重】

	1	2	3	4	5	合計
	だんぜん働く場を重視する	どちらかといえば、働く場を重視する	働く場と生活環境を同等に考える	どちらかといえば、生活環境を重視する	だんぜん生活環境を重視する	
全体	7%	18%	52%	19%	4%	348
島根県	7%	17%	51%	20%	5%	236
それ以外	8%	19%	54%	16%	3%	112
合計(n)	26	61	181	65	15	348

● 「働く場と生活環境を同等に考える」が最も多く、属性間の傾向差は見られない。

設問①【現在の居住地】 × 設問⑩【影響を受けた人】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	父母	兄弟 (姉妹)	祖父母	親戚	先輩	友人	教師	キャリアセンター (学校の就職)担当者	企業の担当者	その他	合計
全体	41%	3%	3%	2%	7%	14%	8%	6%	10%	7%	348
島根県	47%	3%	4%	1%	6%	10%	7%	5%	9%	8%	236
それ以外	28%	3%	0%	3%	8%	21%	10%	10%	13%	5%	112
合計(n)	142	9	10	6	23	47	28	22	36	25	348

●影響を受けた人を「父母」とした回答割合は島根県在住者が県外在住者に比して約 20 ポイント高い。「友人」とした回答割合は、県外在住者が島根県在住者に比して約 10 ポイント高い。

設問①【現在の居住地】 × 設問⑪【判断ポイント】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	給与の額に魅力を感じたから	給与が安定しているから	自らのやりたい仕事であったから	福利厚生や就業体制など働きやすさを感じたから	インターンシップなどでその企業の魅力を感じたから	会社説明会や採用担当者の説明を聞いて好感触を持ったから	オフィスなど快適な職場環境が整っているから	PRパンフレットなどのイメージが良かったから	父母等に県内企業に就職するよう言われたから	その他	合計
全体	10%	39%	47%	44%	14%	24%	5%	3%	6%	7%	348
島根県	9%	43%	43%	45%	12%	19%	4%	2%	8%	7%	236
それ以外	13%	32%	55%	40%	18%	33%	7%	6%	2%	6%	112
合計(n)	36	137	163	152	48	83	17	12	22	24	348

●「給与が安定している」「自らのやりたい仕事」「会社説明会や採用担当者の説明」について 10 ポイント以上の開きがあり、「給与の安定」については県内在住者が県外在住者に比して高く、他の二つは逆の傾向にある。

●分析 B

県内就職意向別に、就職決定の価値観等の差異を確認するために、県内での就職意向別に比較した。

設問③【就職意向の有無】 × 設問④【意思決定のタイミング】

	1 高校生 のときは すでに志 望して いた	2 就職活 動時に 志望し た	3 まだ迷 っている	合計
全体	26%	71%	3%	319
県内就職したい	42%	58%	1%	163
島根が候補のひとつ	8%	87%	5%	123
島根は考えていない	15%	76%	9%	33
合計(n)	83	226	10	319

- 就職先の志望時期を「高校生」とした回答割合は「県内へ就職したい」とする方が突出して高い。
- 「就職活動期」とした回答割合は、「島根が候補地のひとつ」とする方が高く、「県内へ就職したい」とする方が低い傾向にある。
- 「まだ迷っている」とした回答割合は、「島根県は考えていない」とする方が高く、「候補地のひとつ」が続く。

設問③【就職意向の有無】×設問⑤【県の情報を参考としたか】

	1 参考にした	2 存在は知っているが、参考にしな かった	3 存在すら知らない	合計
全体	38%	41%	22%	319
県内就職したい	39%	41%	20%	163
島根が候補のひとつ	38%	39%	23%	123
島根は考えていない	27%	45%	27%	33
合計(n)	120	130	69	319

●「参考にした」とする回答割合は、県内への就職意向保有者が非保有者に比して高く、11～12ポイントの開き。「存在すら知らない」とする回答割合は、県内への就職意向非保有者が他に比べ高い傾向にある。

●存在は知っていても参考としない人が41%いる。

最も参考とした媒体

	1 県のホームページ	2 ふるさと島根定住のホームページ	3 SNS	4 新聞	5 なにも参考にしていない	6 その他	合計
全体	17%	57%	6%	1%	0%	20%	120
県内就職したい	11%	63%	9%	2%	0%	16%	64
島根が候補のひとつ	23%	51%	2%	0%	0%	23%	47
島根は考えていない	22%	44%	0%	0%	0%	33%	9
合計(n)	20	68	7	1	0	24	120

●「ふるさと島根定住財団のHP」とした回答割合は、県内への就職意向保有者が高く、非保有者に比して高く、19ポイントの開き。

●「その他」とした回答割合は、県内への就職意向非保有者が他に比べ高い傾向にある。

設問③【就職意向の有無】 × 設問⑥【県内就職を決めた理由】

	1 島根（出身市町村）が好きだから	2 長男・長女であるから	3 父母等の島根県に居て欲しいという希望があるから	4 島根県にやりたい仕事があるから	5 島根県でやりたいことがあるから	6 島根県で暮らしたいから、島根県の暮らしに魅力があるから	7 県外（都会）で暮らしたくないから	8 島根県以外で就職するつもりがないから	9 その他	合計
全体	61%	19%	29%	10%	4%	11%	13%	13%	10%	248
県内就職したい	71%	20%	29%	10%	5%	15%	18%	20%	3%	157
島根が候補のひとつ	47%	18%	29%	12%	4%	4%	5%	1%	21%	85
島根は考えていない	17%	17%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	6
合計(n)	152	47	73	25	11	27	32	33	26	248

- 「島根県（出身市町村）が好き」とする回答割合は、「県内就職したい」とする人が他の属性に比して突出して高い。
- 「島根県で暮らしたい」「県外で暮らしたくない」とする回答割合は、「県内就職したい」が「候補地の一つ」より10ポイント以上高い。

設問③【就職意向の有無】 × 設問⑬【働く場の重要要素】

	1 安定した規模の会社、大企業	2 会社の規模によらず経営理念など、魅力のある企業	3 福利厚生が充実しているなど、働きやすい職場環境が整備されている企業	4 給与・賃金の高い企業	5 自分のやりがいのある仕事ができる企業	6 その他	合計
全体	14%	3%	48%	11%	23%	1%	319
県内就職したい	15%	2%	50%	6%	25%	1%	163
島根が候補のひとつ	14%	4%	48%	14%	20%	1%	123
島根は考えていない	12%	6%	36%	21%	21%	3%	33
合計(n)	46	10	153	34	72	4	319

●「福利厚生が充実などの働きやすい職場環境」とした回答割合は、県内への就職意向保有者が非保有者に比して高く、逆に「給与・賃金の高い企業」は非保有者が高い傾向にある。

設問③【就職意向の有無】 × 設問⑭【生活環境の重要要素】

	1 住環境が整った生活	2 豊かな自然環境の中での生活	3 ショッピングやレジャーが楽しめる生活	4 ライブ鑑賞やスポーツ観戦など余暇の充実した生活	5 子育て・医療・教育などが充実している中での生活	6 その他	合計
全体	55%	6%	7%	6%	23%	3%	319
県内就職したい	59%	7%	6%	5%	20%	3%	163
島根が候補のひとつ	50%	7%	8%	7%	26%	2%	123
島根は考えていない	55%	0%	12%	9%	21%	3%	33
合計(n)	176	20	23	20	72	8	319

●「豊かな自然環境の中での生活」とした回答割合は、県内への就職意向保有者が非保有者に比して高く、逆に「ショッピング・レジャーを楽しめる生活」は非保有者が高い傾向にある。

設問③【就職意向の有無】 × 設問⑮【働く場・生活環境の比重】

	1 だんぜん働く場を重視する	2 どちらかといえば、働く場を重視する	3 働く場と生活環境を同等に考える	4 視する どちらかといえば、生活環境を重視する	5 だんぜん生活環境を重視する	合計
全体	8%	18%	50%	20%	5%	319
県内就職したい	4%	18%	53%	20%	4%	163
島根が候補のひとつ	11%	17%	47%	21%	4%	123
島根は考えていない	12%	18%	48%	12%	9%	33
合計(n)	24	56	161	63	15	319

●「だんぜん働く場を重視」とした回答割合は、県内への就職意向非保有者が保有者に比して高く、逆に「どちらかといえば生活環境を重視」は保有者が高い傾向にある。

設問③【就職意向の有無】×設問⑩【影響を受けた人】

	1 父母	2 兄弟 (姉妹)	3 祖父母	4 親戚	5 先輩	6 友人	7 教師	8 （キャリアセンター） 学校の就職担当者	9 企業の担当者	10 その他	合計
全体	43%	2%	3%	2%	6%	13%	7%	6%	11%	8%	319
県内就職したい	50%	2%	4%	2%	4%	8%	8%	4%	9%	9%	163
島根が候補のひとつ	39%	2%	2%	1%	6%	18%	7%	9%	11%	6%	123
島根は考えていない	21%	3%	0%	6%	12%	18%	6%	3%	18%	12%	33
合計(n)	137	7	9	6	18	41	23	19	34	25	319

- 影響を受けた人を「父母」とした回答割合は「県内就職したい」とする人が他の属性に比して突出して高く、県内への就職意向非保有者の2倍以上となった。
- 「先輩」「友人」「企業の担当者」は、県内への就職意向非保有者が保有者に比して高い傾向にある。

●分析 C

県外在住の島根移住関心層へのきっかけを確認するために、きっかけがあれば考える人の重要要素を確認した。

設問⑩【島根に戻ることを考えた理由が、どちらともいえないの方】×設問⑬【働く場の重要要素】

	1 安定した規模の会社、大企業	2 会社の規模によらず経営理念など、魅力のある企業	3 福利厚生が充実しているなど、働きやすい職場環境が整備されている企業	4 給与・賃金の高い企業	5 自分のやりがいのある仕事ができる企業	6 その他	合計
全体	9%	9%	43%	13%	22%	4%	23
あまり考えたことがない	0%	0%	100%	0%	0%	0%	2
特にこだわりはない	0%	0%	25%	0%	75%	0%	4
何らかのきっかけがあれば	12%	12%	41%	18%	12%	6%	17
合計(n)	2	2	10	3	5	1	23

●なんらかのきっかけがあれば考える人が重要としている職場要素は、働きやすい職場環境であった。

設問⑩【島根に戻ることを考えたが、どちらともいえないの方】×設問⑭【生活環境の重要要素】

	1 住環境が整った生活	2 豊かな自然環境の中での生活	3 ショッピングやレジャーなどが楽しめる生活	4 ライブ鑑賞やスポーツ観戦など余暇の充実した生活	5 子育て・医療・教育などが充実している中での生活	6 その他	合計
全体	61%	4%	4%	0%	26%	4%	23
あまり考えたことがない	100%	0%	0%	0%	0%	0%	2
特にこだわりはない	50%	0%	25%	0%	25%	0%	4
何らかのきっかけがあれば	59%	6%	0%	0%	29%	6%	17
合計(n)	14	1	1	0	6	1	23

●なんらかのきっかけがあれば考える人が重要としている生活環境の要素は、住環境が整った生活、子育てなどの充実した生活であった。

設問⑩【島根に戻ることを考えが、どちらともいえないの方】×設問⑮【働く場・生活環境の比重】

	1 だんぜん働く場を重視する	2 どちらかといえば、働く場を重視する	3 働く場と生活環境を同等に考える	4 どちらかといえば、生活環境を重視する	5 だんぜん生活環境を重視する	合計
全体	4%	22%	43%	26%	4%	23
あまり考えたことがない	0%	0%	50%	50%	0%	2
特にこだわりはない	0%	25%	0%	75%	0%	4
何らかのきっかけがあれば	6%	24%	53%	12%	6%	17
合計(n)	1	5	10	6	1	23

●なんらかのきっかけがあれば考える人が重要としている働く場と生活環境の比重は、同等であった。

設問⑩【島根に戻ることを考えたが、どちらともいえないの方】×設問⑪【影響を受けた人】

	1 父母	2 兄弟 (姉妹)	3 祖父母	4 親戚	5 先輩	6 友人	7 教師	8 キャリアセンター (学校の就職)担当者	9 企業の担当者	10 その他	合計
全体	9%	0%	0%	0%	4%	17%	13%	22%	26%	9%	23
あまり考えたことがない	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	2
特にこだわりはない	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	50%	0%	4
何らかのきっかけがあれば	0%	0%	0%	0%	6%	24%	18%	24%	18%	12%	17
合計(n)	2	0	0	0	1	4	3	5	6	2	23

●なんらかのきっかけがあれば考える人が影響を受けた人は、友人や企業担当者であった。

設問⑩【島根に戻ることを考えたが、どちらともいえないの方】×設問⑫【求める支援策】

	1 より詳細な県内企業の情報の提供	2 就職活動の交通費・滞在費用等の支援の増額	3 希望(時期、職種)に応じたインターシップの機会の提供	4 身近で気軽に相談できる窓口	5 就活者同士の情報交換の場、ネットワーク	6 その他	合計
全体	61%	52%	26%	26%	22%	4%	23
あまり考えたことがない	100%	50%	0%	50%	0%	0%	2
特にこだわりはない	25%	75%	75%	25%	25%	0%	4
何らかのきっかけがあれば	65%	47%	18%	24%	24%	6%	17
合計(n)	14	12	6	6	5	1	23

●なんらかのきっかけがあれば考える人が求める支援策は、詳細な企業情報や就職活動に掛かる金銭的な支援であった。

●分析D

働く場・生活の場の比重別のそれぞれのニーズを確認するために、両者の比重別に重要要素を比較した。

設問⑮【働く場・生活環境の比重】×設問⑬【働く場の重要要素】

	1 安定した規模の会社、大企業	2 会社の規模によらず経営理念など、魅力のある企業	3 福利厚生が充実しているなど、働きやすい職場環境が整備されている企業	4 給与・賃金の高い企業	5 自分のやりがいのある仕事ができる企業	6 その他	合計
全体	15%	4%	47%	10%	23%	1%	348
だんぜん働く場を重視する	23%	0%	23%	23%	27%	4%	26
どちらかといえば、働く場を重視する	20%	5%	39%	10%	25%	2%	61
働く場と生活環境を同等に考える	15%	6%	46%	9%	24%	1%	181
どちらかといえば、生活環境を重視する	6%	2%	63%	5%	23%	2%	65
だんぜん生活環境を重視する	20%	0%	53%	20%	7%	0%	15
合計(n)	53	14	162	34	81	4	348

●働く場の重要要素として「安定した規模の会社・大企業」「給与・賃金の高い企業」とした回答割合は「だんぜん働く場を重視する」が最も高く、続いて「だんぜん生活環境を重視する」となった。

●「福利厚生が充実し働きやすい職場環境」については、「どちらかといえば生活環境を重視」が最も高く、概ね生活環境の重視の度合いに比例する傾向にある。

設問⑮【働く場・生活環境の比重】 × 設問⑭【生活環境の重要要素】

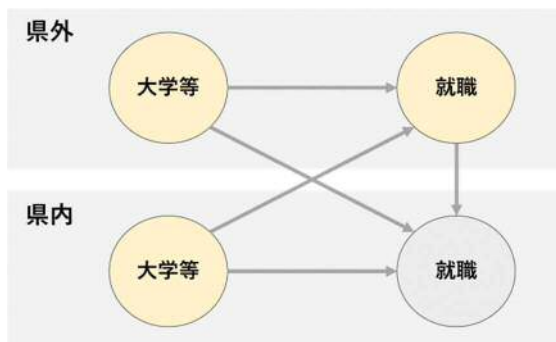
	1 住環境が整った生活	2 豊かな自然環境の中での生活	3 ショッピングやレジャーなどが楽しめる生活	4 ライブ鑑賞やスポーツ観戦など余暇の充実した生活	5 子育て・医療・教育などが充実している中での生活	6 その他	合計
全体	57%	6%	8%	6%	21%	2%	348
だんぜん働く場を重視する	54%	12%	8%	8%	19%	0%	26
どちらかといえば、働く場を重視する	61%	8%	8%	5%	15%	3%	61
働く場と生活環境を同等に考える	56%	6%	9%	6%	21%	2%	181
どちらかといえば、生活環境を重視する	57%	3%	6%	8%	23%	3%	65
だんぜん生活環境を重視する	47%	0%	0%	7%	47%	0%	15
合計(n)	197	20	28	21	74	8	348

- 生活環境の重要要素として「子育て・医療・教育環境」とした回答割合は、「だんぜん生活環境を重視」が突出して高く、他の属性と20ポイント以上の差がある。
- 「豊かな自然環境の中での生活」については、「だんぜん働く場を重視」が最も高く、生活環境の重視の度合いに反比例する傾向にある。

●分析 E

県内就職者と県外就職者の就職に関する価値観のギャップを確認するために、下記のカテゴリ別に比較した。

- ・卒業後は県内で就職する県内の学生
- ・卒業後は県内で就職する県外の学生
- ・卒業後は県外で就職する県内の学生
- ・卒業後は県外で就職する県外の学生
- ・県外で働いている社会人（民間）



各カテゴリ×設問④【意思決定のタイミング】

			1 高校生 のとき には すでに 志望 して いた	2 就職 活動 時に 志望 した	3 まだ 迷っ てい る	合計
全体			26%	69%	5%	147
学生	県内在住	県内就職	44%	51%	4%	45
		県外就職	43%	57%	0%	7
	県外在住	県内就職	19%	81%	0%	31
		県外就職	13%	80%	7%	45
社会人	民間	県外在住	16%	74%	11%	19
合計(n)			38	102	7	147

●県内在住でそのまま県内で就職する学生は、就職先が県内外に関わらず、高校生のときにはすでに志望する。一方、県外在住の学生は、県内で就職する人の方が、県外で就職学生よりも「高校生のときに志望」の割合が高い。

各カテゴリ×設問⑤【県の情報を参考としたか】

			1 参考にした	2 存在は知っているが、参考にしな かった	3 存在すら知らない	合計
全体			38%	52%	10%	147
学生	県内在住	県内就職	40%	53%	7%	45
		県外就職	14%	86%	0%	7
	県外在住	県内就職	48%	48%	3%	31
		県外就職	27%	62%	11%	45
社会人	民間	県外在住	53%	21%	26%	19
合計(n)			56	77	14	147

- 県内在住でそのまま県内で就職する学生は、県の情報を参考とする割合が高く、県外で就職する人はあまり参考としていない。
- 県外在住だが県内に就職する人の傾向も同様の傾向であった。

最も参考とした媒体

			1 県のホームページ	2 ふるさと島根定住のホームページ	3 SNS	4 新聞	5 なにも参考にしていない	6 その他	合計
全体			13%	59%	9%	2%	0%	18%	56
学生	県内在住	県内就職	17%	56%	6%	6%	0%	17%	18
		県外就職	0%	0%	100%	0%	0%	0%	1
	県外在住	県内就職	27%	47%	13%	0%	0%	13%	15
		県外就職	0%	50%	8%	0%	0%	42%	12
社会人	民間	県外在住	0%	100%	0%	0%	0%	10	
合計(n)			7	33	5	1	0	10	56

- 総じて、定住財団のホームページを参考としている。

各カテゴリ×設問⑥【県内就職を決めた理由】

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
			島根（出身市町村）が好きだから	長男・長女であるから	父母等の島根県に居て欲しいという希望があるから	島根県にやりたい仕事があるから	島根県でやりたいことがあるから	島根県で暮らしたいから、島根県の暮らしに魅力があるから	島根県で暮らしたくないから	島根県以外で就職するつもりがないから	その他	
全体			36%	13%	13%	7%	4%	8%	6%	11%	2%	15
学生	県内在住	県内就職	38%	13%	16%	5%	3%	7%	7%	8%	3%	5
		県外就職	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
	県外在住	県内就職	35%	12%	11%	9%	5%	9%	6%	12%	1%	10
		県外就職	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
社会人	民間	県外在住	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
合計(n)			51	18	19	10	6	11	9	15	3	142

●総じて、島根が好きだから県内就職を決めている。

各カテゴリ×設問⑮【働く場・生活環境の比重】

			1	2	3	4	5	合計
			だんぜん働く場を重視する	どちらかといえば、働く場を重視する	働く場と生活環境を同等に考える	どちらかといえば、生活環境を重視する	だんぜん生活環境を重視する	
全体			9%	20%	50%	18%	3%	147
学生	県内在住	県内就職	11%	22%	47%	18%	2%	45
		県外就職	0%	14%	71%	14%	0%	7
	県外在住	県内就職	3%	19%	52%	23%	3%	31
		県外就職	16%	20%	51%	11%	2%	45
社会人	民間	県外在住	0%	16%	47%	32%	5%	19
合計(n)			13	29	74	27	4	147

- 県内在住で県外に就職する学生は、県内在住でそのまま県内に就職する学生よりも、働く場と生活環境を同等に考える人の割合が高い。
- 県外就職している社会人は、どちらかといえば生活環境を重視している。

各カテゴリ×設問⑩【影響を受けた人】

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
			父母	兄弟 (姉妹)	祖父母	親戚	先輩	友人	教師	キャリアセンター (学校の就職)担当者	企業の担当者	その他	合計
全体			39%	3%	0%	2%	5%	16%	7%	8%	12%	7%	17
学生	県内在住	県内就職	58%	2%	0%	0%	9%	9%	2%	7%	7%	7%	3
		県外就職	14%	0%	0%	0%	0%	14%	29%	0%	14%	29%	1
	県外在住	県内就職	45%	3%	0%	3%	0%	13%	6%	6%	13%	10%	4
		県外就職	22%	4%	0%	2%	4%	29%	11%	9%	16%	2%	7
社会人	民間	県外在住	32%	0%	0%	5%	11%	11%	5%	16%	11%	11%	2
合計(n)			57	4	0	3	8	24	11	12	17	11	147

- 在住が県内外を問わず、県内就職をする学生は、親の影響を受けた割合が高い。
- 県外で就職する学生は、友人からの影響も受ける。

各カテゴリ×設問⑩【判断ポイント】

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
			給与の額に魅力を感じたから	給与が安定しているから	自らのやりたい仕事であったから	福利厚生や就業体制など働きやすさを感じたから	インターンシップなどでその企業の魅力を感じたから	会社説明会や採用担当者の説明を聞いて好感触を持ったから	オフィスなど快適な職場環境が整っているから	PRパンフレットなどのイメージが良かったから	父母等に県内企業に就職するよう言われたから	その他	
全体			5%	16%	28%	20%	8%	15%	2%	2%	2%	3%	5
学生	県内在住	県内就職	0%	19%	25%	19%	8%	14%	5%	3%	2%	5%	1
		県外就職	8%	14%	26%	16%	8%	19%	3%	3%	0%	3%	0
	県外在住	県内就職	3%	18%	31%	24%	9%	9%	0%	0%	3%	3%	3
		県外就職	0%	0%	43%	14%	14%	21%	0%	7%	0%	0%	0
社会人	民間	県外在住	10%	17%	26%	21%	7%	14%	2%	0%	2%	0%	1
合計(n)			14	48	85	60	25	44	7	6	5	9	303

●県外在住でそのまま県外で就職する学生は、自分のやりたい仕事で就職先を選んでいる割合が高い。

4. 考察および提案

4-1 各属性の傾向

属性		傾向	
性別	男性	<ul style="list-style-type: none"> ●島根に戻る場合、島根に希望職種があることが条件で、職場環境も重要である ●県の就職支援情報等の存在すら知らない人が多い ●島根に戻る場合、長男長女であることを理由とする人の割合が女性より多い ●就職先決定における影響を受けた人は、「企業の担当者」が女性より高い 	
	女性	<ul style="list-style-type: none"> ●島根に戻る場合、その時期はあまり定まっていない ●島根に戻る場合、働きやすさが条件で、住環境や子育て環境が重要である ●県の就職支援情報等は知っていても参考にしない割合が男性より多い ●インターン機会を欲している ●就職先決定における影響を受けた人は、「父母」や「友人」が男性より高い 	
職種	学生	<ul style="list-style-type: none"> ●県の就職支援情報の存在だけは知っている（参考にせず） ●やりたい仕事であることが重要である ●きっかけがあれば島根に戻りたいとしつつも、いつ島根に戻るかは決めていない（特に女性にその傾向あり） 	
	社会人	民間	<ul style="list-style-type: none"> ●定住財団のホームページを利用している ●身近での相談窓口を欲している ●県外就業者において、就職先決定のポイントを「会社説明会や採用担当者の説明」とする回答割合が高い
		公務員	<ul style="list-style-type: none"> ●影響を受けた人は、「父母」が高い ●安定した給与や福利厚生が重要である ●身近での相談窓口を欲している

属性		傾向	
出身地域	東部	● やりたい仕事や給与の安定性が重要である	
	西部	● 高校の頃には県内就職の意向が高い ● 子育て・医療などが充実している生活環境が重要である ● 「就職活動の交通費等の支援の増額」を希望である	
	隠岐	● 子育て・医療などが充実している生活環境が重要である ● 高校の頃には県内就職の意向が高い ● 給与の安定性が重要である ● 就職支援施策の利用状況・認知度は、ともに突出して低い ● 「就職活動の交通費等の支援の増額」を希望している	
居住地	学生 (卒業後)	県内	● 県内就職の意向は、親の影響が強い ● 気軽に相談できる窓口を欲している
		県外	● 県外就職の意向は、友人の影響もある ● 自分のスキルを活かせる職種を求めている
	社会人	県内	● 住環境を重視して県内就職している ● 県内就職の意向は、親の影響が強い
		県外	● やりたい仕事、企業の安定性、企業担当者に好印象をもっている ● 島根に戻る場合、子育て環境を重視している ● 希望に応じたインターンシップの機会を欲している ● 友人からのきっかけの提供があるとよい
県内から県内へ就職する学生		● 県内就職の意向は、親の影響が強い ● 定住財団のホームページを参考にしている ● 働く場と生活環境を同等に考える	
県内から県外へ就職する学生		● 県外就職の意向は、友人の影響もある ● 定住財団のホームページをあまり参考としていない	
県外から県内へ就職する学生		● 県内就職の意向は、親の影響が強い ● 定住財団のホームページを参考にしている	
県外から県外へ就職する学生		● 県外就職の意向は、友人の影響もある ● 自分のやりたい仕事で就職先を判断する	
県外就職した社会人		● どちらかといえば、生活環境を重視する ● 定住財団のホームページを参考にしている	

4-2 考察

●出身地域について

県や定住財団が実施する就職支援施策の利用状況・認知度ともに、隠岐が突出して低い原因について、高さの順が、東部、西部、隠岐の順になっており、大学進学時までの就職支援機関と接触する頻度の差が背景にあるものと考えられる。

また、医療や教育などの生活環境を重視する傾向が、東部よりも隠岐や西部に見られたことは、イメージする東部が松江や出雲だとすると、育ってきた環境においてインフラ面における環境の差が影響した可能性もある。

さらに、西部・隠岐出身で、県内就職をする人は、就職活動における金銭的な支援を希望する割合も高く、就職先が比較的多い東部まで来るための毎回の交通費等が負担になっている可能性がある。

●就職先決定のタイミングについて

高校生のタイミングで就職先について意思決定した人ほど、県内就職意向が顕著に現われ、高校卒業時までのイメージ形成が重要と考えられる。

●県内就職を判断する因子について

県内就職をした若しくはしたいと考えている人について、島根が好きであることを理由とする人が多かった。島根県への愛着の度合いが県内就職意向に対する重要な影響因子の一つであると考えられ、県内就職者においては、成長過程からのふるさと意識の形成が重要と考えられる。

●影響を受けた人について

県内就職をした若しくはしたいと考えている人についてみると、就職先決定の際に最も影響を受けた人を「父母」とする回答割合が高い傾向にあることから、親からの影響が県内就職意向に対する影響因子の一つであると考えられ、本人に対する働きかけと共に、親世代に対する働きかけが重要と考えられる。

●参考とする媒体について

ふるさと島根定住財団のホームページを参考とする割合が高いが、中でも県外就職をした人程、その割合が高い結果となっている。県外居住する人であっても県内情報を参考にしていることから、有効な情報を発信することで、県内就職への関心を高められる可能性がある。特に、やりがいのある仕事や、子育て環境などの住環境に関する情報が重要となると考えられる。

●将来、島根に戻る時期について

将来、島根に戻る場合、20代から30代前半、若しくは60代以上を想定している割合が高い結果になったのは、若年層にとって、結婚・出産や定年などのライフステージに応じた変化を県内への移動を考えるタイミングとして捉えている傾向がうかがえる。一方で、30代後半から40代は島根に戻るタイミングとする割合が低い傾向には、子どもの進学、家の購入等、同時期のライフステージに想定されるイベントへの具体的なイメージがまだ具体化されていないという可能性が推察される。加えて、転職において受け入れ側となる企業がその年代の採用にネガティブであるというイメージを持っている可能性も否定できない。

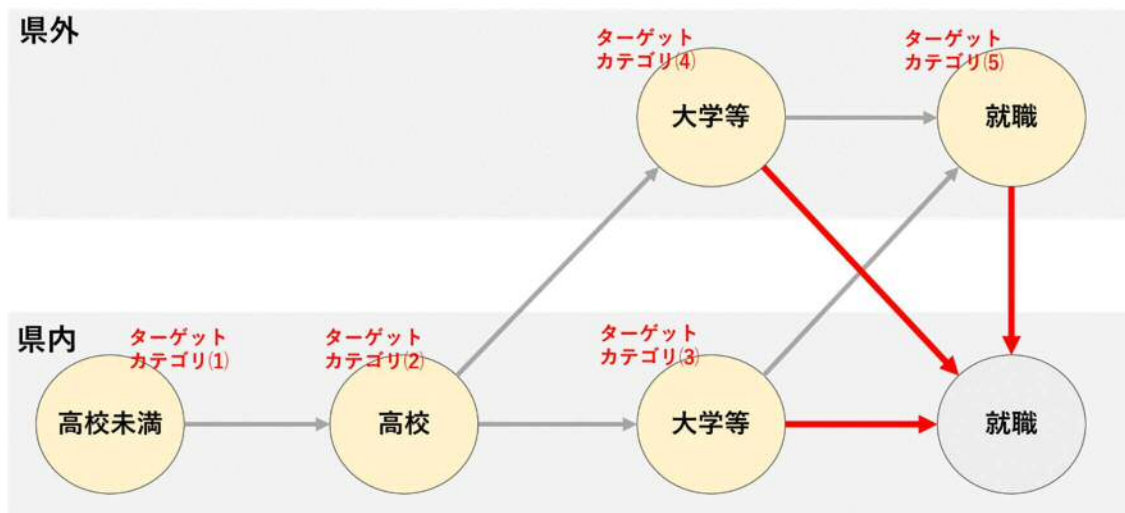
●県内に居住する人と県外に居住する人の判断ポイントについて

現在の居住地が県内外を問わず、県内で就職をする学生は、親からの影響を受けており、かつ高校生の頃から決めていた割合が高かったことから、親の影響や意思が伝えることの重要性が示唆される結果となった。また、県外就職を決める学生は、友人からの影響も受ける割合が高かったため、同郷のコミュニティがあることの重要性が示唆され、定住財団のホームページもあまり参考としておらず、県内情報が届かないまま県外で就職している可能性がある。

県外で就職した社会人は、生活環境を重視しており、県外で生活してみてその価値観が生れた可能性も考えられ、島根の生活環境を訴求することで県内転職の関心が高まる可能性がある。

4-3 ターゲティングと課題の整理

県内就職者を増やすことを目的とし、環境や就職先決定におけるプロセスに合わせた施策を検討するために、以下の通り施策ターゲットを設定するとともに、ターゲット別の県内就職促進に向けた課題を分析した。



ターゲット	課題
カテゴリ(1)	高校に進学する前から、ふるさとを体験・学習し、島根に対するポジティブなイメージや郷土愛を育むことが重要
カテゴリ(2)	働く場・暮らす場としての島根の魅力に対する気づきや主体的に関わる動機を育むことが重要
カテゴリ(3)	県内の地域に隔たりなく、詳細な企業情報を、「やりがい」や「職場環境」と共に効率よく伝えることが重要
カテゴリ(4)	県が提供する情報の充実や、金銭的な就職支援があることを伝えることが重要
カテゴリ(5)	多様な業種ややりがい、生活環境や子育て環境の良さを伝えることが重要
カテゴリ(6)	子世代に影響を与えられるよう情報発信側の役割を担い、島根の魅力の発信や職業選択における働きかけの実践が重要

また、すべてのカテゴリにおいて、親世代への働きかけも重要となる。

4-4 施策の提案

それぞれのカテゴリに対し、考えられる施策の方向性を検討した。

- カテゴリ(1) …高校未満

島根のポジティブなイメージ形成から郷土愛を醸成し、島根を好きになるための基礎を形成するためには、進学や就職を意思決定する迄の過程が重要であり、本人や親世代に対する意識啓発や、学校や地域活動と連動した親子で仕事や島根暮らしについて体験する機会の提供などを進めることが有効と考えられる。

現在、県内全域の小学生を対象とした隠岐体験学習が実施されており、島根学習においてポジティブな反応が多いことから、東部や西部でも同様な体験学習の実施が考えられる。

- カテゴリ(2) …高校生

若年層に対する情報発信に加え、その親世代に対する意識啓発や、学校や地域活動と連動した、高校生と大人で仕事や島根暮らしについて語り合う場づくりなどを進めることが有効と考えられる。また、夢が広がる高校生にとっては、島根で活躍している若手社会人との交流機会を提供することが有効と考えられる。

この年代になると、情報収集媒体は、web が中心となるため、現代における情報のデジタル化を勘案すると、本人に対するアプローチにはweb の活用は欠かせない。このため、SNS 等のツールを効果的に活用した双方向性の情報発信を進めるとともに、県内在住の高校生同士の横のつながり、卒業生との縦のつながりを育み、出身者のコミュニティづくりにつなげることが有効と考えられる。

また、より将来イメージを形成するために、高校や企業とも連携し、企業インターンの推進も有効と考えられる。

また、高校卒業後に就職を選択する層に対し、県内出身者が県内企業で就職活動をする場合は、企業が県内東部に多いことを勘案すると、特に県内西部や隠岐の人には交通費を支援すると就職活動における機会損失低減になると考えられる。

- カテゴリ(3) …県内大学生

県内企業と連携し、企業インターンの推進が有効と考えられる。

企業との直接的な接点があるが、就職先決定の重要因子の一つとなっており、県内への就業促進に向けては県内在住時に県内企業と接する機会を増やすことが重要である。

様々な機会を通じた地元企業との接点づくりを進め、若年層に島根県内の多様な仕事、企業を知る機会づくりを進めることが有効である。

- カテゴリ(4) …県外大学生

企業との直接的な接点が、就職先決定の重要因子の一つとなっており、県内への就業促進に向けては県内企業と接する機会を増やすことが重要となることから、県内企業と連携し、企業インターンの推進が有効と考えられる。企業インターンを行う学生や、県内就職を志望する学生に対しては、移動交通費等の就職支援策の存在の周知が必要である。

また、様々な機会を通じた地元企業との接点づくりを進め、若年層に島根県内の多様な仕事、企業を知る機会づくりを進めることが有効である。山陰経済ウィークリー等のビジネス誌を大学等へ無償配布を推進することも県内企業を知って貰う機会に繋がると考えられる。

- カテゴリ(5) …県外での就職者

県外就職をしている人は、特に「子育て・医療・教育環境」を重視する割合が県内在住者に比して高いことから、職場環境と共に子育て環境等の情報を届けることが有効と考えられる。また、子育て中の県内就職者の成功体験を、定住財団ホームページや SNS により積極的に情報配信していくことが有効と考えられる。

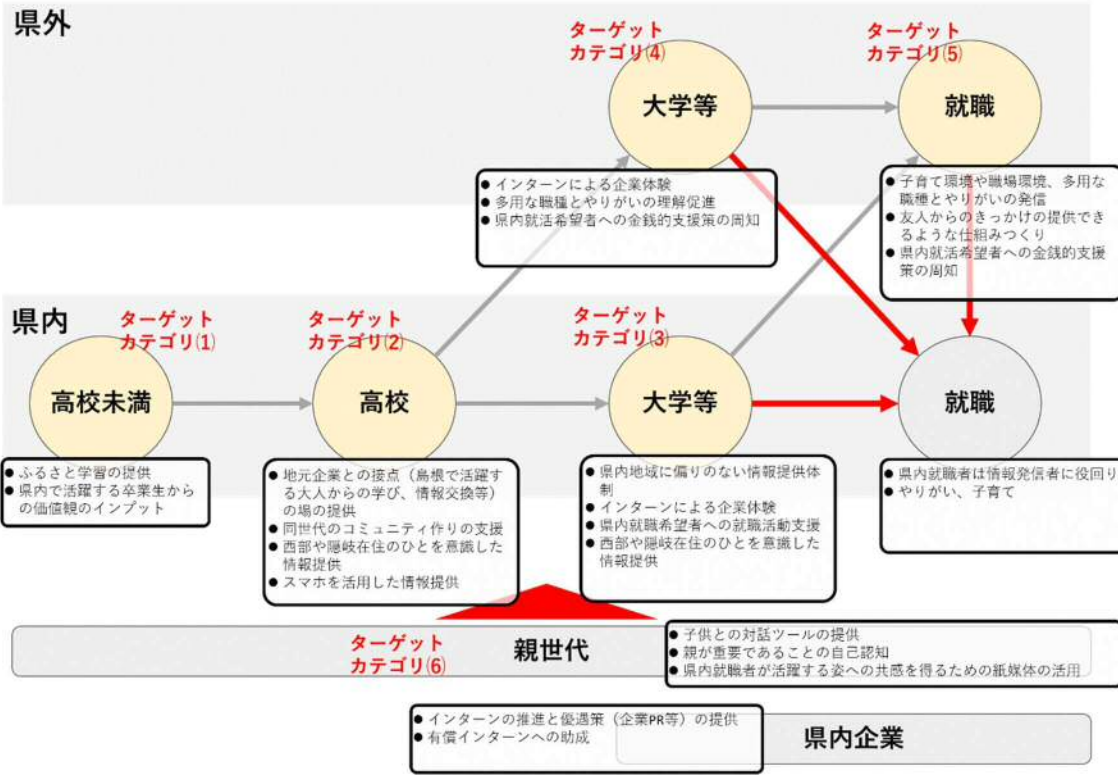
- カテゴリ(6) …親世代

県内就職の意思決定は、親の影響を最も受けており、県内就職を決める人の多くは高校生の頃にはすでに県内就職の志を持っており、子供の就職先の意思決定に最も重要な層が親であることを認識してもらう必要がある。このことから、親世代への働きかけることは有効と考えられる。

親世代は地域新聞等の紙媒体から情報を得る割合は今もなお多いと考えられ、マスメディアを活用した情報発信を進めると共に、SNS を活用した取り組みを実践することが有効と考えられる。本調査結果の一部を地域新聞やフォトしまね等の紙媒体で公表することも一案である。

- 企業等に対する提案

島根に戻る意向がある人の、県内就職の機会損失をしないために、年齢を問わない採用の推進のための仕組みの構築が必要と考えられる。インターンシップを積極的に受け入れることも重要と考えられ、U ターン者を積極採用している企業に対し、企業 PR を支援する等の優遇策が考えられる。さらに、インターン受け入れ企業を増やすためには、インターンの受け入れ費用に対する助成制度等、企業側の負担軽減策も有効と考えられる。



5. 備考

5-1 アンケート回答者へのインセンティブ

アンケートに回答して頂いた人のうち、希望者全員を対象とし抽選を行い、当選者に対し、アンケート参加に対するインセンティブとしてクオカード500円を送付した。当選者の選択においては全回答者の中から、公務員を除外し、無作為に200名を選定した。

5-2 協力（順不同）

○民間企業

1. 今岡工業 株式会社
2. 株式会社 出雲村田製作所
3. 株式会社 ワイテック石見工場
4. 島根電機 株式会社
5. 株式会社 テクノプロジェクト
6. 株式会社 プロビズモ
7. 島根トヨタグループ
8. 株式会社 ジュンテンドー
9. 佳翠苑皆美
10. 社会福祉法人 誠和会（みなと保育園）
11. 医療法人 石州会 六日市病院
12. 益田赤十字病院
13. アースサポート 株式会社
14. ヒラタ精機 株式会社
15. 株式会社 アイティープロデュース
16. 株式会社 島根銀行
17. 株式会社 コガワ計画Mランド
18. 医療法人 沖縄徳洲会 出雲徳洲会病院
19. 全国共済農業協同組合連合会 島根県本部
20. 大和森林 株式会社
21. 島根電工 株式会社
22. 株式会社 島根富士通
23. 株式会社 デルタ・シー・アンド・エス
24. 東京靴 株式会社

25. 株式会社 フーズマーケットホック
26. 島根中央信用金庫
27. 株式会社 ホテルアルファーワン出雲
28. 株式会社 ブロックスインダストリー
29. マリエ・やしろ 株式会社
30. 株式会社 しちだ・教育研究所
31. 社会福祉法人 はなぶさ 玉湯さくら保育園
32. 株式会社 エブリプラン

○県立高校

1. 島根県立松江東高等学校
2. 島根県立出雲工業高等学校
3. 島根県立情報科学高等学校
4. 島根県立出雲商業高等学校

○出身者会

1. 大田市（出身者会）
2. 浜田市（浜っ子LINEクラブ）
3. 江津市（関東・関西江津会）
4. 益田市（東京益田会）

○ふるさと島根定住財団

くらしまねっと・ジョブカフェサイト登録者
学生登録者

○公務員

島根県職員
市町村職員

——以下、余白——